



中央大学 ボランティアセンター



活動報告書
2025年度

目次

● ご挨拶／中央大学ボランティアセンターについて	1
● ボランティアセンター利用集計	2
● ボランティアセンター活動報告	3
1. 主催・共催事業	3
① 宿泊を伴うボランティア活動	3
② 多摩キャンパス周辺の地域活動	4
③ 都心キャンパス周辺の地域活動	7
④ 講座・説明会・ワークショップ・交流会	11
⑤ 報告・発表等	13
2. 連携事業	13
3. ボランティアセンター 学生スタッフ・公認学生団体 活動報告	15
① 学生スタッフ	15
② 公認学生団体	16
【地域活動】 面瀬学習支援	16
【地域活動】 チーム防災	17
【地域活動】 りこボラ！	18
【地域活動】 SCHMATZ (シュマッツ)	20
● 協定・助成／表彰／メディア掲載	21

ご挨拶

ボランティアセンター長 / 副学長（学生総合支援担当） / 学生部長 鳴子 博子



ボランティアセンター長を鳥居伸好前副学長・学生部長から引き継がせていただいて早くも1年がたちました。法学部の茗荷谷移転（2023年4月）以降、多摩キャンパス・都心キャンパス（後楽園・市ヶ谷田町・茗荷谷）の二拠点化の進む本学で、2023年度初めにボランティアセンターが茗荷谷キャンパス1階に、2025年4月にボランティアセンタースポット VCS が後楽園キャンパス新1号館1階に開設されました。学生たちは、多摩と都心に1名ずつ計2名の専門のコーディネーターのサポートや教職員の支援を受けながら、多摩・都心キャンパス周辺にて積極的な地域貢献活動を展開しています。

参加のハードルの比較的低い「空きコマボランティア」から、ボランティアセンタープログラムの活動、学生スタッフの活動、公認学生団体の活動まで、多岐にわたるボランティア活動を学生たちは思い思いに自身の学生生活の中に取り込んでいます。

活動継続中の3つの公認学生団体「面瀬学習支援」（宮城県気仙沼市）、「チーム防災」（多摩・茗荷谷周辺）、「りこぽら！」（後楽園周辺）に、本年度は、茗荷谷周辺でフードドライブ活動を行う、新しい公認学生団体「SCHMATZ（シユマツ）」が加わりました。

コロナ禍を経て SNS の広範な普及をはじめ若者をめぐる状況変化により、昨今はコミュニケーションの取り方が苦手な学生も少なくありません。それだけに、社会に出る一歩手前の学生にとって、地域子どもたちからお年寄りまで様々な年代の人々とかかわり汗を流す時間は、座学では味わえない生きた学びの時間となっています。受動から能動へ。ボランティア活動を通じて、彼ら彼女らは地域の抱える問題や社会課題を見つめ、行動しながら考える、本学のユニバーシティ・メッセージ「行動する知性。Knowledge into Action」にふさわしい自主的・主体的な存在へと成長する糧を得ていると言えるでしょう。

学生ボランティア活動は、多くの方々のご理解、ご支援があってこそ進めることのできるものです。最後になりましたが、関係者の皆さまのご支援、ご協力に心より感謝を申し上げます。そして今後も、引き続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

中央大学ボランティアセンターについて

●設立のあゆみ

- 2011年3月 学生部学生課主導で構内募金活動実施
- 2011年8月 学生部学生課主催により学生ボランティアを宮城県気仙沼市に派遣
- 2012年4月 東日本大震災被災地支援団体ネットワーク設立
- 2013年4月 ボランティアステーション設置
- 2015年4月 ボランティアセンター設立

●ビジョン

2022年6月より中央大学ボランティアセンター Vision を策定しました。

中央大学は建学の精神である「實地應用ノ素ヲ養フ」教育と研究を進展させると共に、「行動する知性。Knowledge into Action」というユニバーシティ・メッセージを掲げ、教育研究活動を通じて広く社会に貢献することに努めてきました。それに加えて、社会連携と社会貢献それ自体を新たな使命として位置づけ、これを「中央大学の社会連携と社会貢献に関する理念」として公表しています。ここでいう「社会」とは、大学が存在するキャンパス周辺の地域社会から、日本社会全般、さらにはグローバルな諸課題を抱える社会までを含みます。中央大学ボランティアセンターは、地域などの多様なコミュニティと連携し、そのニーズに応じた活動を展開すると共に、活動の中で社会の課題を新たに発見し解決に向けた行動を自ら起こすことのできる学生の育成に努めるべく、以下のようにビジョンを定めます。

1. 学生一人ひとりが持つ可能性を信じ、寄り添いながら、学生主体の活動を支援する
2. 学生が社会課題を知り自らの経験を言語化する過程を支援し、学生の新たな学びへとつなげる機会を提供する
3. 学生がボランティア活動を通じて社会の多様性の意義を学び、グローバルな視野をもって活躍できるように支援する
4. ボランティアの意義や魅力を学生と共に発信し、社会の変革と発展に寄与する

●運営委員会

2025年度ボランティアセンター運営委員会 10回開催

一号委員	経済学部	鳴子 博子	三号委員	理工学部	田口 善弘	四号委員	学生部事務長	安東 久
二号委員	商学部	石村 直之		文学部	山科 満	五号委員	学生生活課	開澤 裕美
三号委員	法学部	森谷 亮太		総合政策学部	李 里花		学生生活課	藤掛 素子
	経済学部	本田 貴久		国際経営学部	陳 建安			
	商学部	中村 亨		国際情報学部	岡嶋 裕史			

ボランティアセンター利用集計

●来室者数、開室日数

月	キャンパス	来室数計	内 訳			開室日数	1日当たり 学生来室数
			学生	教職員	学外の方々		
4月	多摩	229	217	3	9	21	10.3
	茗荷谷	260	245	12	3	16	15.3
	後楽園	27	24	3	0	1	24.0
	市ヶ谷田町	9	8	1	0	1	8.0
5月	多摩	189	168	6	15	19	8.8
	茗荷谷	168	149	11	8	12	12.4
	後楽園	25	18	4	3	2	9.0
	市ヶ谷田町	5	4	1	0	1	4.0
6月	多摩	297	268	9	20	21	12.8
	茗荷谷	233	215	6	12	14	15.4
	後楽園	39	30	6	3	3	10.0
	市ヶ谷田町	9	6	2	1	1	6.0
7月	多摩	177	170	1	6	22	7.7
	茗荷谷	145	131	6	8	15	8.7
	後楽園	12	10	1	1	2	5.0
	市ヶ谷田町	---	---	---	---	---	---
8月	多摩	16	12	2	2	15	0.8
	茗荷谷	88	74	8	6	11	6.7
	後楽園	---	---	---	---	---	---
	市ヶ谷田町	---	---	---	---	---	---
9月	多摩	61	49	3	9	19	2.6
	茗荷谷	63	50	9	4	14	3.6
	後楽園	8	7	1	0	1	7.0
	市ヶ谷田町	---	---	---	---	---	---
10月	多摩	203	189	5	9	21	9.0
	茗荷谷	177	149	12	16	16	9.3
	後楽園	18	9	8	1	1	9.0
	市ヶ谷田町	12	10	1	1	1	10.0
11月	多摩	163	150	5	8	18	8.3
	茗荷谷	106	84	11	11	12	7.0
	後楽園	27	23	3	1	3	7.7
	市ヶ谷田町	9	3	6	0	2	1.5
12月	多摩	141	139	0	2	17	8.2
	茗荷谷	58	52	4	2	12	4.3
	後楽園	13	9	4	0	2	4.5
	市ヶ谷田町	5	5	0	0	1	5.0
1月	多摩	123	123	0	0	18	6.8
	茗荷谷	52	51	1	0	12	4.3
	後楽園	---	---	---	---	---	---
	市ヶ谷田町	---	---	---	---	---	---
2月	多摩	38	11	0	27	18	0.6
	茗荷谷	67	59	3	5	11	5.4
	後楽園	---	---	---	---	---	---
	市ヶ谷田町	---	---	---	---	---	---
3月	多摩	70	58	0	12	21	2.8
	茗荷谷	117	105	5	7	14	7.5
	後楽園	---	---	---	---	---	---
	市ヶ谷田町	---	---	---	---	---	---
キャンパス		年間 来室数合計	内 訳			年間 開室日数	1日当たり 学生来室数
			学生	教職員	学外の方々		
多摩		1,707	1,554	34	119	230	6.8
茗荷谷		1,534	1,364	88	82	159	8.6
後楽園		169	130	30	9	15	8.7
市ヶ谷田町		49	36	11	2	7	5.1
年間総合計		3,459	3,084	163	212	411	7.5

●学生限定メールマガジン登録者数・配信数

- ・登録者数 643人 (2026年3月31日時点)
- ・2025年度新規登録者数 123人 (上記人数に含む)
- ・配信数 41通


ボランティアセンター活動報告

1 主催・共催事業

① 宿泊を伴うボランティア活動



●とちぎ里山保全プログラム

初心者でも参加しやすく、移動時間や交通費を抑えられる関東近郊での1泊2日型プログラムとして、長年環境保全活動に取り組む、若者の受け入れ実績が豊富で宿泊施設も整っているNPO法人トチギ環境未来基地の協力を得て、栃木県芳賀郡益子町で実施しました。

実施日	2025/5/ 1(木)~2(金)	協力団体	NPO 法人トチギ環境未来基地		
活動内容	棚田の整備や、竹林・里山の整備などの里山保全活動を行うと共に、里山保全に関する学習および振り返りを実施しました。			参加人数	学生 13 職員 1
学生の声	<ul style="list-style-type: none"> 里山が高齢化によって維持できなくなっているということは知っていましたが、実際に現地を見て作業を体験することで、その大変さを実感することができました。また、一人の力ではあまり効果がなくても、多くの人と協力して取り組むことで、あっという間に棚田がきれいになり、みんなで活動することの大切さを感じました。さらに、棚田全体を見せていただく中で、まだ多くの棚田が放棄されている現状を知り、この問題を解決するためには、もっと多くの人に関心を持ってもらうことが必要だと感じました。 				


●能登半島地震復興支援ボランティア

2024年1月1日に発生した能登半島地震の被災地支援のため、下記のとおり、日本財団ボランティアセンターの支援を受け、石川県鳳珠郡能登町および珠洲市において、夏と春にボランティア活動を実施しました。

第7クール (夏休み)	実施日	2025/8/27(水)~29(金)	共催	日本財団ボランティアセンター	協力団体	株式会社ぶなの森
	活動内容	復興支援活動として、倉庫の整理・片づけを行うと共に、古民家「茅葺庵」にて、輪島塗漆器を再生しアクセサリとして活用する作業や、森の整備活動を行いました。			参加人数	学生 14 教員 1・職員 1
	学生の声	<ul style="list-style-type: none"> 能登の皆さんは、復興作業を通して震災前の状態に戻ろうとしているのではなく、震災前よりも良いまちをつくらうとしていることが印象的でした。もともと能登半島の各市町村では高齢化が進んでいましたが、震災後、企業や行政、ボランティアなどによる復興の過程で新しいコミュニティが生まれたそうです。私も実際に現地の方々とかかわる中で、皆さんのつながりの強さを感じました。これまで私は「復興」とは、災害によって生じたマイナスをゼロに戻す作業だというイメージを持っていましたが、能登の皆さんはそれ以上に前向きで、考え次第で状況や心のあり方も変わるのだということを学びました。 				
第8クール (春休み)	実施日	2026/3/ 9(月)~11(水)	共催	日本財団ボランティアセンター		
	協力団体	株式会社ぶなの森	助成	朝日新聞厚生文化事業団	参加人数	学生 13 教員 1・職員 1
	活動内容	復興支援活動として、お寺の山道の残土や落ち葉の撤去、薪割りを行いました。				
学生の声	<ul style="list-style-type: none"> 作業後には現地の方々から感謝の言葉をいただき、わずかではありますが復旧の一助となれたことを実感しました。一方で、復旧が進んでいない場所や人手不足など、依然として多くの課題が残っていることも感じました。今回の経験を通して、ボランティアは現地の方々を支えるだけでなく、参加者自身が現状を知り、今後も関わり続けるきっかけとなる重要な活動であると認識しました。 					

●福島ボランティア&スタディーツアー



2021年11月にオンラインで福島県大熊町とつながり、現地の現状や課題を学んだことをきっかけに、翌年には現地でのスタディーツアーとボランティア活動を実施。その後も毎年継続して実施しており、2025年度も2月に活動を行いました。

実施日	2026/2/16(月)~18(水)	助成	福島県再生可能エネルギー復興推進協議会 地域復興支援事業		
活動内容	伝承館・廃炉資料館でのスタディーツアーや大熊未来塾ほか関係団体とのワークショップを実施すると共に、地域団体(ネクサスファーム、ゆめの森学童クラブ、もーもーワールド、おおくまクワイ再生クラブ)においてボランティア活動を行いました。			参加人数	学生 14 職員 1
学生の声	<ul style="list-style-type: none"> 活動を終えた今、学び、働き、考えた先に自分が果たすべきことは「発信すること」であると考えた。これまでのようにボランティアとして活動し、達成感を得て前向きな気持ちで終わるのではなく、スタディーツアーを通して当事者の声を聞いたことで、自分が把握していた情報だけでは事実を十分に捉えきれなかったことに気づき、疑問を抱くようになった。この違和感を安易に解消するのではなく持ち続け、多角的な視点を共有しながら社会へ問い直していくことこそが、関わらせていただいた方々への責任であると感じた。 				

② 多摩キャンパス周辺の地域活動


●空きコマボランティア

学生スタッフの発案で実施された「空きコマボランティア」。2023年の秋に初めて行われて以来、毎年春と秋に継続的に実施しています。

春	実施日	2025/ 6/ 6(金), 9(月), 10(火), 11(水), 12(木)	場 所	多摩ボランティアセンター・多摩キャンパス周辺	参加人数	学生 28(延べ) 職員 8(延べ)
	活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者施設に贈るモビール制作 ・多摩キャンパスおよびその周辺地域のゴミ拾い、清掃活動 				
学生の声	<ul style="list-style-type: none"> ・奥まった場所や茂みの中にある手の届かないゴミを拾えないことが悔しかったです。それでも、少しずつきれいにしていく達成感や、普段は気づかない場所の環境問題を実感できたのは、貴重な経験でした。 ・参加者の皆さんは優しく、初めてでも居心地が良く、安心して作業に集中できました。作業も簡単で、みんなでお話しながらボランティアできたのが楽しかったです。ありがとうございました。 					
秋	実施日	2025/11/17(月), 18(火), 19(水), 20(木), 21(金)	場 所	多摩ボランティアセンター・多摩キャンパス周辺	参加人数	学生 63(延べ) 職員 20(延べ)
	活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・寄付用として使用済み切手を規定のサイズに裁断する『切手整理』 ・多摩キャンパスおよびその周辺地域のゴミ拾い、清掃活動 				
学生の声	<ul style="list-style-type: none"> ・普段関わる機会の少ない多様な人たちと交流し、視野が広がる貴重な経験となりました。会話を楽しみながら活動できたことが特に印象的でした。また、キャンパス周辺のゴミ拾いを通して適度な運動になり、デジタルデトックスにもつながり、気持ちがリフレッシュしました。全体を通してアットホームで優しい雰囲気の中で参加できたことも良かったです。 ・いろいろな人と気軽に話しながら活動でき、アットホームな雰囲気に参加しやすく居心地も良かったです。楽しく取り組めて、また参加したいと思いました。 					



●チャリティーウォーク

世界の多くの地域では、今も女性や女子が毎日長距離を歩いて水を集めている国があります。その立場を体験し、歩数や募金で支援資金を集めるケア・インターナショナル ジャパンの「Walk in Her Shoes」(500歩につき1円寄付)に2025年も参加しました。

参加期間	2025/ 4/1(火)~5/31(土) 登録人数：学生 18人	【多摩キャンパス内を歩くキャンペーン実施日】 5/13(火), 22(木) 昼休み 学生8・職員3(延べ)	共 催	日本財団 ボランティアセンター
活動内容	期間中の5月31日までアプリを登録してキャンペーンに参加。うち2日間は多摩キャンパス内を歩くイベントを開催しました。			
学生の声	<ul style="list-style-type: none"> ・「Walk in Her Shoes」キャンペーンに参加して、歩くことの楽しさを改めて実感しました。ALKOOアプリで中央大学チームの歩数がリアルタイムで見られるので、毎日歩くのが楽しくなり、自然と歩くことが新しい趣味になりました。歩きながら誰かの役に立っていると思うと、充実感を感じました。 			

●クリーン大作戦

毎年恒例で春と秋に行っている多摩キャンパス周辺の清掃活動を実施しました。自治会の方々との交流を楽しみながら、自分たちが日常において使う道路やその周辺を清掃しました。

春の陣	実施日	2025/ 5/25(日) 9:00-11:00	場 所	多摩キャンパス周辺	参加人数	学生 11・職員 1
	活動内容	地域自治会・東中野谷津入支部の皆さんと一緒に、草刈りやゴミ拾いを行いました。				
学生の声	<ul style="list-style-type: none"> ・初めてのボランティアに一人で参加するので、ずっと一人で作業するのかなと思っていました。しかし実際には学生や地域の方とたくさん交流でき、汚れた軍手や溜まったゴミ袋を見るだけで、自分たちの手で道がきれいになったことを実感でき、達成感を味わえました。これまで道の汚れをあまり気にしたことはありませんでしたが、今回の活動を通して、道を整えてくれる方々の存在を意識するようになりました。とても貴重で充実した経験になったと思います。 					
秋の陣	実施日	2025/11/30(日)9:00-11:00	場 所	多摩キャンパス周辺	参加人数	学生 7・職員 1
	活動内容	地域自治会・東中野谷津入支部の皆さんと一緒に草刈りや落ち葉集め、ゴミ拾いを行いました。				
学生の声	<ul style="list-style-type: none"> ・八王子の歴史についてたくさん話を聞いてうれしかったです。掃除もしたことで充実感があり、楽しかったです。 ・地域の方々と一緒に掃除をすることができて楽しかったです。他の参加者もみんな優しく仲良くなれたので良かったです。また参加したいと思います。 ・朝の良い天気の中で、気持ちよく掃除ができました。町の方は気さくに声をかけて下さる優しい方ばかりでした。普段自分が通る道も誰かが清掃してくれているんだろうなと思うきっかけになりました。 					

● CVC 夏ボラ

夏休み期間に、様々な分野のボランティア活動を体験できる「夏ボラ」を実施しました。学生スタッフが中心となり、受け入れ先と調整しながら企画を進め、プログラム終了直後に事後勉強会を行うことで、活動をより深く考える機会とすることができました。

事前勉強会	実施日	2025/7/23(水), 7/24(木) 14:00-16:00		場 所	多摩ボランティアセンター・オンライン	
	活動内容	ボランティア活動に参加する前に、その活動について学び、考えを深めることで、実際のボランティア体験をより学びの深いものにします。			参加人数	学生 56(延べ)・職員 1
環境×アート×子ども	実施日	2025/8/ 5(火) 9:00-17:00	場所・共催	八王子市地球温暖化防止活動推進センター (東京都八王子市)		
	参加人数	学生 8・職員 1	企画・準備	6/6~8/1 (計6日間)、学生 19(延べ)		
	活動内容	環境に関する絵画展の会場において、環境について考えるワークショップ(オリジナルポストカードづくり、廃材を活用したアート作品づくり)や、作品鑑賞会(アートキッズウォーク)を企画・運営しました。				
	学生の声	<ul style="list-style-type: none"> 子どもと多くコミュニケーションを取ることができ、良い経験となった。 子どもに環境という難しい問題を説明することの難しさを感じた。 子どもたちが普段できない、また親御さんも子どもたちに家で体験させにくい廃材を使った作品づくりの企画に参加でき、うれしく思った。 子どもにしかない観点からの発言から、多くを学ぶことができた。 				
地域×子ども	実施日	2025/8/19(火) 10:00-17:00	場所・共催	多摩市立和田東寺方コミュニティセンター 大栗川かるがも館 (東京都多摩市)		
	参加人数	学生 10・職員 1	企画・準備	6/4~6/18 (計4日間)、学生 14(延べ)		
	活動内容	小中学生を対象としたイベント(夏休みの宿題タイム、おやつ、キャンドル作り、ヨガ、カードゲーム)を企画・運営しました。				
	学生の声	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが大学生と関わる機会はあまりないので、貴重な体験になったと思います。同じように、大学生にとっても貴重な経験になったと思います。 教師の道を目指しているので、今後活かせる経験ができたと感じます。これからも積極的にボランティア活動に参加していきたいです。 				
福祉	実施日	2025/8/22(金) 10:00-17:00	場所・共催	社会福祉法人 東京光の家 (東京都日野市)		
	参加人数	学生 5・職員 1				
	活動内容	利用者の作業(箱折り、点字の確認)に参加すると共に、視覚障がいのある方々との運動や、介助を行いながらの散歩のサポートを行いました。				
	学生の声	<ul style="list-style-type: none"> 伝え方や表現の仕方を少し変えるだけで相手に伝わる度合いが大きく変わることを学びました。また「明るい雰囲気職員が作っているから視覚障害者の方も明るくなる」という言葉を聞き、周りの雰囲気作りの大切さを実感しました。 普段では出会うことのない世界を知ることができ、とても充実した貴重な経験になりました。 				
農業体験	実施日	2025/8/25(月) 8:00-12:00	場所・共催	ネイバーズファーム (東京都日野市)		
	参加人数	学生 10・職員 1	企画・準備	6/6 (計1日間)、学生 3		
	活動内容	ブルーベリー収穫、オクラの伐根作業および腐葉土の入れ替え作業を体験した後、農家の方からお話を伺い、質疑応答および振り返りを行いました。				
	学生の声	<ul style="list-style-type: none"> 農業について普段は聞けないようなことまで知ることができ、特に身の回りに都市農業をしている人はいないので大変興味深かった。消費者に直接届けたいという思いは、私もバイトで接客業をしているのでよくわかり、とても納得した。一緒に参加した子どもたちともコミュニケーションが取れてよかった。 				
地域×多世代	実施日	2025/9/ 7(日) 9:00-17:00	場所・共催	多摩市立愛宕コミュニティセンターかえで館 (東京都多摩市)		
	参加人数	学生 8・職員 1	企画・準備	6/2~6/26 (計3日間)、学生 9(延べ)		
	活動内容	多摩市のコミュニティセンターにて、高齢者世代と交流するイベント(元気アップ体操、世代ミックスクイズ、カードゲーム、おしゃべりタイム)を企画・運営しました。				
	学生の声	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の方の考え方や生きる知恵、価値観などを知ることができ、自分の価値観も広がり、成長につながったと感じました。 上から下へ文化や考えが引き継がれることも大切ですが、多世代で協力する機会はあまりないため、このような機会が増え、社会全体がより協力的になればいいなと思いました。 				
環境×福祉	実施日	2025/9/ 8(月) 9:00-16:00	場 所	フードバンク TAMA、日野市社会福祉協議会 (東京都日野市)		
	参加人数	学生 6・職員 1	共 催	日野市社会福祉協議会・日野市ボランティアセンター		
	活動内容	フードバンク TAMA にてレクチャーを受けた後、日野市ボランティアセンターにて、実際の配布準備やパントリー作業などを体験しました。				
	学生の声	<ul style="list-style-type: none"> 食料配布の対象が個人だけでなく団体にも広がっている点から、必要としている人が多いことを実感し、物価高の影響で今後も必要とする人は増えそうだと感じました。その一方で、行政からの支援が少ないと感じました。 フードバンクや社協の方の役割を実務を通じて学べたこと、また学生のうちから貧困について理解を深められたことから、パートナー団体と学生間でお互いにプラスの関係を築けたと感じました。 				



環境×アート×子ども



地域×子ども



福祉



農業体験



地域×多世代



環境×福祉

● CVC 春ボラ

夏ボラに続き、春休み期間にも様々な分野のボランティア活動を体験できる春ボラを実施しました。

事前勉強会	実施日	2026/1/15(木) 対面, 16(金) オンライン, 30(金) 対面 14:30-16:30	場 所	多摩ボランティアセンター・オンライン		
	活動内容	ボランティア活動に参加する前に、その活動について学び、考えを深めることで、実際のボランティア体験をより学びの深いものにします。		参加人数	学生 39(延べ)・職員 1	
果樹園	実施日	2026/2/ 3(火) 9:00-16:00	場 所	高橋果樹園 (東京都西多摩郡瑞穂町)		
	参加人数	学生 14・職員 1	共 催	高橋果樹園 (東京都立川市・西多摩郡瑞穂町)、瑞穂町役場		
	活動内容	援農およびワークショップを企画・実施しました。	企画・準備	11/10(月) 果樹園下見 学生 2・職員 1		
	学生の声	・農家から、現場で実際に直面している課題や工夫について話を聞くことができ、非常に興味深かった。特に、作業負担を軽減するために果樹が実る高さや位置を工夫しているという話が印象に残り、農業現場での創意工夫の重要性を実感した。				
フードバンク	実施日	2026/2/ 6(金) 9:00-16:00	場 所	フードバンク TAMA、日野市社会福祉協議会 (東京都日野市)		
	参加人数	学生 6・職員 1	共 催	日野市社会福祉協議会・日野市ボランティアセンター		
	活動内容	フードバンクにて、倉庫や食品の整理、配送用の小分け作業および荷造りを行いました。				
	学生の声	・食品ロス削減や貧困解決におけるフードバンクの役割を学び、今後の社会活動やゼミ活動、将来の仕事につながる経験を得られたことは、フードバンクの意義や必要性を伝える上でとても有意義であった。				
光の家	実施日	2026/2/20(金) 10:00-17:00	場所・共催	社会福祉法人 東京光の家 (東京都日野市)		
	参加人数	学生 4・職員 1				
	活動内容	利用者の作業(箱折り、点字の確認)に参加すると共に、視覚障がいのある方々との運動や、介助を行いながらの散歩のサポートを行いました。				
	学生の声	・作業や運動に楽しそうに取り組む利用者の方々と交流する中で私自身も楽しい時間を過ごすことができ、後日、職員の方から「利用者の皆さんも非常にうれしそうでした」と伺ったことで自分の関わりが前向きな刺激となっていたことを実感して温かい気持ちになりました。				
かえで館	実施日	2026/3/ 7(土) 9:00-17:00	場所・共催	多摩市立愛宕コミュニティセンターかえで館 (東京都多摩市)		
	参加人数	学生 11・職員 1	企画・準備	10/28~3/6 (計 14 日間)、学生 61(延べ)		
	活動内容	多摩市のコミュニティセンターにて、小学生を対象としたイベント(Canvaを用いた自己紹介シートづくり)を企画・実施しました。				
	学生の声	・学生と子どもがマンツーマンで作業し、時間を共にしたことで、活動後にはすっかり信頼関係が築かれているように感じられた。学生も子どもも皆笑顔で、楽しそうに話している姿が見られたことから、企画の参加者全員にとって素晴らしい経験になったのではないかと思います。				
アート	実施日	2026/3/14(土) 9:00-17:00	場所・共催	八王子市地球温暖化防止活動推進センター (東京都八王子市)		
	参加人数	学生 8・職員 1	企画・準備	10/28~3/13 (計 4 日間)、学生 12(延べ)		
	活動内容	大学生と子どもたちが楽しみながらアートに親しみ、芸術作品とじっくり向き合う機会を創出すると共に、ワークショップでの作品づくりや作品鑑賞を通して、環境問題やエコについて考える機会を提供しました。				
	学生の声	・環境問題やエコについて考えるような機会はこれまでもあったが、地域の公共施設で実施することでより多くの方にきっかけを届けることができると感じた。身近にあるものをエコに使えるという機会は子どもにとっても大人にとっても貴重な体験になったと思う。				
かるがも館	実施日	2026/3/22(日) 10:00-17:00	場所・共催	多摩市立和田東寺方コミュニティセンター大栗川かるがも館 (東京都多摩市)		
	参加人数	学生 6・職員 1	企画・準備	11/19~3/17 (計 7 日間)、学生 32(延べ)		
	活動内容	多摩市のコミュニティセンターにて、主に小学生を対象としたイベント(学生が講師となりプチ講座を開く)を企画・運営しました。				
	学生の声	・事前申込数は少なかったものの、予想以上の来場があり、幅広い年代の方に参加していただいた。子どもから大人まで楽しめるイベントとなるよう、体を使って学びを深める授業づくりに努めた。参加者の方々に楽しんでいただけたことに満足している。				



果樹園



フードバンク



光の家



愛宕かえで館



アート



かるがも館

● たま子どもフェス

多摩市役所 子ども・若者政策課が主催するイベント「たま子どもフェス」において、学生スタッフが主体となってブースを出展し、ボランティア活動を実施しました。

実施日	2025/6/15(日) 10:00-15:30	場 所	多摩市永山駅周辺 (パルプ永山、永山北公園)	
参加人数	学生 18・職員 1	企画・準備	6/12 (計 1 日間)、学生 11	
活動内容	子どもと触れ合い交流する機会として、学生スタッフが中心となり、子ども向けのブースを出展し、射的・輪投げ・スーパーボールすくいなどを実施しました。			
学生の声	・今までイベントの運営のボランティアをやったことがなかったが、非常にやりがいのある時間を過ごせた。将来イベントプランナーになりたいと考えているので、この経験を糧にしたい。			




③ 都心キャンパス周辺の地域活動

(※投稿=チャット投稿数の合算)

●法学部の先輩による新入生なんでも相談会

法学部の先輩(新2年~新4年)が、事前準備を行い、新入生へ、学生生活を中心にどんなことでも相談できる何でも相談会を開催しました。

活動期間	2025/3/26(水)~4/15(火)		場 所	LINE オープンチャット 茗荷谷キャンパス 4/1,15…正面入口前オープンスペース 4/9,10,11,14…茗荷谷ボランティアセンター
相談会日程	参加	来場		
2025/4/1(火) 10:30-17:00	学生 12	学生 250		
相談内容	勉強の仕方、公務員志望、法曹志望、留学、大学生生活、サークル、友だちの作り方			
学生の声	<ul style="list-style-type: none"> 4/1 は 250 名の新入生が来場し相談会に十分なニーズがあったことがわかった。新入生は先輩プロフィールを見て、ききたい先輩をある程度しぼっていた。次回はプロフィールに掲載する内容をさらに吟味する。 新入生の関心は、まず第一に学業で質問のフェーズは多岐にわたった。何もかもわからない人から絞り込んで質問したい人まで様々で、法曹、公務員、留学に関する質問も多かった。PC を買った方が良いかといった具体的な質問、空きコマをつくったほうが良いか、サークルなど課外活動に関する質問も多数。 来年度にむけて…プロフィールは前日までに完成させ、当日は複数のプロフィール掲示板を設置する。/ 共通内容はフリーペーパーを作り配付する。例) 4/3 学科履修登録ガイダンスを必ず聴こう、健康診断と重複していたらアーカイブ配信を聴こうなど/開催時間帯を再検討し学科ごとに分けて行う。 			
				


●XFOOD (クロスフード) ~食に関する情報共有の会

食に関する社会貢献活動に関心がある学生の情報共有コミュニティを運営しました。

活動期間	2025/5/15(木)~2026/3/31(月) 半年ごとに更新	場 所	茗荷谷ボランティアセンター・ LINEオープンチャット	参加	学生 30
活動内容	子ども食堂、子ども宅食、フードパントリー、フードバンク、フードドライブ、農業支援など、食に関するボランティア活動について、茗荷谷ボランティアセンターやメンバー限定チャットで情報共有を行ってきた。2023 年秋の発足以来、この共有会をきっかけに様々な貢献グループが展開される一方で、コミュニケーション量は徐々に落ち着いていった。こうした経緯を踏まえ、共有会は一定の役割を終えたと考え、今年度をもって一度区切りとする予定である。				

●茗荷谷子ども実験教室

中央大学生が地域の小学生に「自分の手を動かして確かめられる、ふしぎ楽しい実験教室」を開きました。学生が先生となり、学生一人が同年齢の小学生数名に小グループの実験教室を開きます。子どもの発達段階に応じ、準備した複数のコンテンツを取捨選択し組み立て、創意工夫をこらし、ユニークできめ細やかな教室を開きました。

テーマ	キラキラした結晶をつくらう	場 所	試作改良：茗荷谷ボランティアセンター、後樂園キャンパス会議室 運 営：文京区立久堅児童館		
活動期間	試作改良：2025/6/19(木), 6/20(金) 運 営：2025/6/28(土)		参加	試作改良：学生 7 運営：学生 3	来 場
内 容	3 種類の物質(尿素、ミョウバン、酢酸ナトリウム三水和物)を、比較観察した…お湯に溶けるか/反応は吸熱か発熱か/再結晶するか/再結晶の形				
テーマ	実験コンテンツ創り	共 催	日本財団ボランティアセンター		
活動期間	創発：2026/2/4(水)~3/17(火)	場 所	茗荷谷ボランティアセンター、Google チャット、自宅		
内 容	実験テーマと複数コンテンツを創る。実験情報を学生が持ち寄り、試作、結果を共有し改良、テーマを絞り込んだ。教室が実際に開催できるよう、決めたテーマに適切な材料・器具を選択、複数の実験コンテンツとキットを用意準備した。				
テーマ	偏光板の実験/LED 発電の実験	共 催	日本財団ボランティアセンター		
活動期間	運営：2026/3/19(水)	場 所	文京区立小日向台町児童館	参加	学生 5
内 容	<ul style="list-style-type: none"> 偏光板の実験(低学年)…プラスチックを偏光板ではさみ観察した。3 種類の糖の水溶液(ぶどう糖、果糖、砂糖)を2枚の偏光板ではさみ左回転または右回転させることで色が変化する不思議を比較観察した。 LED 発電の実験(高学年)…ブレッドボードを用いて回路を組み、LED に LED 光を当てて電気を発生させ、その電気をクリスタルイヤホンで音として聞く実験を行った。光同士を遠ざけると音も小さくなる現象を観察した。 				
学生の声	<ul style="list-style-type: none"> 当日朝に学生が減り一人が対応する小学生の人数が増えた。不安があったが子どもたちそれぞれにやりがいのある実験を任せられる結果となり、同時並行で複数すすめる方法でうまく進行でき、手ごたえを感じた/共通のワークシートを作り使用した。低学年でも記入しやすいよう、丸で囲む選択式の設問と、スケッチ用の大きな空欄を準備し、それが子どもの理解に効果的なことを確かめられた/子どもの扱う材料は色に至るまで統一したほうが、争いにならないで済む。それでも結晶のでき上がり方は多様で、だれがどれを持ち帰るか争いは生じてしまう。調整が難しかった/お湯を使う実験で、低学年はやけどをしないか心配したが、一人一つの担当が決まると、子どもたちは集中して慎重に実験を行っていて、頼もしかった。 約1ヶ月と10日におわたる開発期間と当日の運営を振り返り、下記の気づきを共有し、次年度への資産とした。子どもたちは非常に素直で、面白いと感じればその通りに最大限の賛辞を、微妙であれば正直にイマイチと反応を返してくれるので、貴重なフィードバックの場となった/偏光板の実験では、色の変化を「宇宙みたい」「1 億円のダイヤモンドみたい」と表現するなど、科学が文学的な感性を育む機会にもなっていた/2つのテーマの適切な分け方は年齢ではなかったかもしれない/LED 発電では「なぜ音が聞こえるのか」という知的好奇心が引き出されたが「原理への直感的な腹落ち」までは至らなかった。一方、偏光板の実験では水溶液の種類による現象の違いに気づいたものの、そこから「なぜ」の問いが引き出されず物足りなさを感じる子どもがいた/実験道具は最初から全て表には出さず、工程に合わせて小出しにする配慮が必要/準備段階の「失敗した実験」を記録し次年度へ共有することがテーマ選びの助けになる/試作が上手く行かないとき断念するタイミングは「少し手前」に設定しておいたほうが良かった。泥沼になってしまった。一方で、それでも踏み込んだからこそ見つけたこともあった(例：ガラス容器なら上手くいくなどの発見)。タイミングへの微妙な嗅覚が大事なのだろう/帰宅した子どもへ保護者が説明できるように、保護者向け解説資料を作成し、終了時に手渡すべきだった。 				
					

●絵本よみきかせ「ねずみの会～チュー大生のおはなし、おはなし」

近隣の文京区立小石川図書館にて、幼児および小学生を対象とした絵本のよみきかせ「ねずみの会チュー大生のおはなし、おはなし」を開催しました。学生が企画のすべてを担いました。

夏	活動期間	企画：2025/8/28(金)～9/26(金) 運営：2025/9/27(土)	チーム数	1	参加 来場	企画：学生 4、運営：学生 4 子ども 3、保護者 3
	場所	企画：茗荷谷ボランティアセンター、Google チャット、自宅／運営：文京区立小石川図書館				
	会場の工夫	2チームで途中の会場交換を予定していたが、子どもの人数が少なかつたため急きょ予定を変更し1チームで場所移動なしの開催とした。				
学生の声	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの数が少ないことで、1チームで行ったことは良い判断だった。しかし、1チームであっても前半と後半で場所を変えたほうが良かった。メリハリをつけて子どもたちの集中をうながすためには、部屋移動は非常に有効。 図書館研修で指摘された改善点を意識できた。 お互い役割を振らなくても各自がスムーズに役割を意識して行うことができた。 練習をした成果が出て全員読み聞かせが上手くなっていた。 部屋前のプレート装飾も綺麗に子どものワクワクを引き出すように作ることができた。 コーディネーターが不在になったが、当日のタイムスケジュールを自分たちでマネジメントできた。 子どもたちが途中飽きてしまった。1時間ぶつ通しだったのは今後の検討点である。 参加者が非常に少なかった。図書館自体に子どもがいない、昨年の読み聞かせ会とは違う状況だった。事前の計画通りに行えなかったことが心残りである。 絵本のサイズについて、大きさは気にしすぎなくて良い、むしろ小さい方が子どもは気になって前に来てくれるかもしれない。 					
秋	活動期間	企画：2025/10/18(土)～11/28(金) 運営：2025/11/29(土)	チーム数	2	参加 来場	企画：学生 4、運営：学生 4 子ども 10、保護者 9
	場所	企画：茗荷谷ボランティアセンター、Google チャット、自宅／運営：文京区立小石川図書館				
	会場の工夫	子どもがくじをひいてチームを決める。会場は会議室とホール控室。入口にチーム名を掲示し、ハーフタイムにチームごと部屋を交換。				
学生の声	<ul style="list-style-type: none"> 長い絵本、朗読的な絵本であっても子どもの集中がとぎれなかった。終わりのアンケートで大半が未就学児であることがわかり、驚いた。 このよみきかせ会のメインターゲットは未就学児であることに留意して作品を組み立てると良い、そして小学低学年向けの作品も混ぜると良い。 長尺の作品は参加型の作品を選ぶと良い、最後まで前のめりに参加してくれる。 マットと椅子の配置について、椅子があると保護者は椅子に座り、子どもはそばにいたいのでやはり椅子に座る。マットは1サイズ小さくして、椅子を前に寄せるほうが良いかもしれない。 最初は小規模だったがその分子どもたちと1対1で交流でき、とても良い経験だった。中には恥ずかしがり屋の子もいたので、私と保護者の方方で声かけをしながら進めた。英語の絵本を読む前に、子どもが先に英語で読み始めた時は、とても驚いた。全体として、絵本をインタラクティブに読んだ時が一番盛り上がり、子どもたちも楽しんでた。今後は、数を数える遊び、絵本を近づけて見せる工夫、コール&レスポンスなどを使って、より良い読み聞かせになるよう改善していきたい。 次回からよみきかせが始まったらドアを締める受付がドアの管理を行う。 次回から B5 チラシを準備し、当日朝子ども室でチラシを配付するのが集客に効果的。 					
冬	活動期間	企画：2026/2/3(火)～2/27(金) 運営：2026/2/28(土)	チーム数	1	参加 来場	企画：学生 3、運営：学生 2 子ども 10、保護者 5
	場所	企画：茗荷谷ボランティアセンター、Google チャット、自宅／運営：文京区立小石川図書館				
	会場の工夫	応募学生が少なかったため、1チームでよみきかせを行う準備をしていたところ、前回参加の留学生より申し出があり、同会場で別の留学生チームと一緒によみきかせ会を開いた。				
学生の声	<ul style="list-style-type: none"> 長い作品、小型の作品、英語の作品に対する子どもたちの反応を振り返った。 年齢層に合わせた選書の難しさや日英交互の朗読手法について意見を交わした。 公園での呼びかけの成果があった。 長い本の間に短い本や楽しい本を挟むべき。 難易度や長さの異なる教材を交互に配置する緩急のある構成が有効。 物理的な距離の近さが子どもの集中力を高めた。 会場に時計がないので腕時計が必須。 読み聞かせ前の雑談やお名前を聞くといった「プレ・インタラクション」は、子どもの安心感を醸成し、深い関与を引き出した。 「日英共に文章を読む」「キーフレーズの反復」が子どもたちの反応が高かった。原則は日本語でよみ、キーワードのみ原文の英語で読み、読むだけでなく一緒に声に出して響きを体験するハイブリッドが、多言語読み聞かせに適しているのでは。 					

●夏休みワクワクプログラム「宿題終わらせてあそぶぞ」

学生が茗荷谷地域の子どもたちを対象に、夏休み期間の居場所づくりを企画し、運営を行いました。大学構内にて夏休みの宿題をサポートすると共に、お絵描き伝言ゲームや大学アドベンチャーといったあそび企画を盛り込むことで、メリハリをつけ飽きない工夫をしました。あそびに参加せず勉強に集中できるスペースも準備しました。




活動期間	企画：2025/7/ 6(日)～8/23(土) 運営：2025/8/25(月) 振り返り：2025/8/25(月)～10/30(木)	共催	日本財団ボランティアセンター
場所	企画：茗荷谷ボランティアセンター／運営：茗荷谷キャンパス教室 期間中 Google チャット、LINE	参加 来場	企画：学生 19、運営：学生 9 振り返り：学生 10 投稿 115 小学生 45(保護者の同伴や見学なし)

タイムライン	10:00 勉強会開始 11:10 遊び企画①お絵描き伝言ゲーム 12:00 昼休憩 13:00 遊び企画②紙飛行機飛ばし大会 15:00 遊び企画③大学アドベンチャー 15:45 終了 ※遊び企画は希望者のみ参加
学生の声	<ul style="list-style-type: none"> 実際に始めてみると、最初の印象は思っていたよりずっと楽しい、ということだった。子どもたちは元気いっぱい、こちらが構える必要などなく自然に近づいてきてくれる。勉強を教えたときに「ありがとう」と笑顔で言ってくれたり、一緒に遊んでくれたりすることで、すぐに心の距離が縮まっていくのを感じた。正直、最初は子どもとどう接すれば良いか分からなかったが、終わる頃にはむしろ「子どもって本当にかわいい」と思えるまでになっていたのは、自分でも驚きだった。 特に難しかったのは子どもが言うことを聞いてくれないときだ。勉強会の時間なのに走り回ってしまったり、突然折り紙を始めたりする子がいて、どう対応していいかわからず戸惑った。強く注意しても逆効果のように感じるし、放っておくと集中して勉強したい子に迷惑がかかる。子どもたち一人ひとりに合った対応を見つけるのは簡単ではなく、先生という立場ではなく大学生という曖昧な距離感だからこそその難しさを痛感した。 もっとメリハリをつけて「今は勉強」、「今は遊び」と切り替えられる時間配分にするべきだったのではないかと。勉強の時間をもう少し短くして、そのぶんレクリエーションを増やすことで、子どもたちもより満足できたのではないだろうか。 反省点は時間管理があまりできていなかった。時間内にプログラム全部が終わらず、保護者の方を待たせてしまった。時間が来たため教室に戻ろう、という旨を伝えても遊びに熱中してしまい、中々言うことを聞いてくれなかったため、最初から遊びのプログラムの数を減らすべきだったと思った。ただ、それだけ熱中できる遊びを自分たちで考えることができたことは、全体を通してとても良かったことなのではないか。 来年度に向けて…勉強時間と遊ぶ時間の切り替えをはっきりさせ、「勉強する子」と「宿題がない・遊びたい子」で教室を分ける、「教室では走らない」と事前の強くアナウンスする／謎解きの内容が小学2年生には難しすぎた、折り紙以外のトランプなどの遊びを用意し体を動かさない静かな遊びの選択肢を増やす／室内にある高い椅子は最初から別の場所に隠しておく／グループ分けをリストバンドのような身につけられるものにする／アドベンチャーでは教室を回る順番など細かい動線を事前に決めておく／伝言ゲームでは、1グループ5人程度が適正。

●文京子どもスポーツイベント計画プロジェクト

都心部では子どもたちが思い切り体を動かす場が確保しづらい状況があります。大学生が地域の子どもたちを対象としたスポーツイベントを計画するプロジェクトを立ち上げました。

活動期間	2025/8/1(金)～2026/3/31(火) 会議 15	参加	学生 65(延べ) 投稿 437
場所	茗荷谷ボランティアセンター、近隣児童館、近隣小学校、Google チャット、LINE		
内容	<p>種目の検討、近隣児童館および近隣小学校にてテストイベントの計画、企業協賛の交渉を行った。本プロジェクトは2026年度も継続して行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 種目の検討…小学生の経験者が少なく、経験者と非経験者の技術差が生じにくい種目を選定する。パラスポーツ、ニュースポーツ、ゆるスポーツから選ぶ。 テストイベント…2つの小学校区にて2026年5月に2回予定。 企業協賛…複数の企業と交渉中。 		

●防災アナログゲームの開発と実践

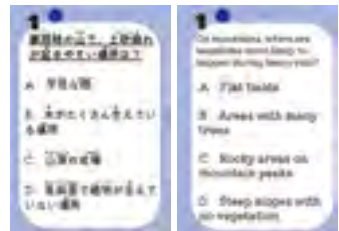
避難所運営ゲーム HUGなどを参考に、小学生から大学生までが共に学べる中央大学版防災アナログゲームの開発を行い、地域の子どもたちへ実践会を開催してアセスメントを行うプログラムを行いました。外国にルーツがあったり発達障害があったり困りごとをかかえる子どもたちにも優しいD&I ゲーム開発をめざし、特に小学生に適したゲームが少ないとの情報を得ていたため小学生に焦点をあて、具体的には小学4年の学校宿泊防災訓練に適したゲーム開発をめざしました。

2つの防災アナログゲームが完成し、メンバーは今年度で解散、開発した2つの防災ゲームはボランティアセンターに属する形とし、次年度以降の小学校宿泊訓練やその他の教育プログラムなどにおいて、ボランティアセンターが使用したり中央大学生に貸し出して有効に活用、必要に応じて改良を続けていく予定です。

活動期間	<p>①既存ゲームの評価：2025/11/ 5(水)～11/28(金) 会議 4</p> <p>②アイデアスケッチ作成からゲーム完成：2025/11/29(土)～2026/3/6(金) 会議 18</p> <p>③実践会：2026/3/ 7(土) 10:00-16:00・2026/3/25(水) 10:00-12:00 2026/3/26(木) 10:00-12:00、13:00-15:00</p> <p>④実践に伴う改良：2026/3/7(土)～3/26(木)</p>	共催	日本財団ボランティアセンター
場所	<p>①②④茗荷谷ティアセンター、Google チャット、LINE、Zoom</p> <p>③文京シビックセンター、文京区立久堅児童館</p>	参加	<p>①学生 23(延べ) 投稿 25</p> <p>②学生 64(延べ) 投稿 429</p> <p>③学生 18(延べ)</p> <p>④学生 6(延べ) 投稿 56</p>
内容	<p>① HUG・防災クロスロードなど、既存の防災ゲームの特徴を分析、比較評価を行った。それぞれに「遊びやすさ」と「学びの深化」のトレードオフという課題が存在しており、子どもにも理解できるルールの簡略化を求めつつ、同時に災害の深刻さを伝える圧倒的なリアリティをいかに両立させるかが、今後の教材開発の核心と論じた。</p> <p>②小学4年生に適した既存の防災ゲームはなく新しいゲーム開発を行う結論に達し、まずは多様なアイデアスケッチから始まり、議論と試作を繰り返す中で内容が統合・洗練され、最終的に2つの主要なゲーム「ディザスターガーディアン」「防災人狼」が完成した。ディザスターガーディアン…神経衰弱の要素を取り入れたカードゲームで、記憶力と運を使いながら防災知識を学ぶ。</p> <p>防災人狼…避難時の行動などのお題に対し、話し合いと多数決で正解を導き出し、「市民」のほかに、あえて誤回答に誘導する「人狼」やすべての設問に言及する「話し好き」が紛れ込む議論型ゲーム。日英併記で製作。お題に難易度の目印有。</p> <p>③いずれのゲームも楽しみながら知識を深める有効なツールとして全世代から高く評価された。運営面では、学生によるサポートが円滑な理解を助けた一方で、対象者の年齢に応じた難易度調整やルールの改良といった課題が浮き彫りになり、改良をすすめた。ゲームが持つ娯楽性が自発的な学びや防災意識の向上を促しており、教材としての普及に大きな期待が寄せられた。</p> <p>④ディザスターガーディアン…3回のターンでは短すぎて手札があまり集まらないという意見に基づき、全員が3枚集まるまで続ける方式を検討。カードを獲得しやすくするため、サイコロの出目を調整する検討。すべてのカードにルビを振ることを決定。ゲーム終了後に手持ちのカード内容を確認し、解説する時間を設ける検討。</p>	来場	子どもから高齢者まで約80 小学生 41、中学生 1



内 容	<p>防災人狼…ルールを3つのレベルに分ける改良。レベル1は人狼なしのお題クイズのみ、レベル2は人狼1人でお題の正誤のみを競う、レベル3は人狼当ても含めた完全版とし、年齢に応じて使い分ける。「人狼を当てても意味がない」という意見に応え、お題の正解と人狼の特定を組み合わせた4パターンの勝敗条件を設定し、人狼を当てることに意味を持たせた。運営・調査方法の改良…児童館などの現場では、低学年が遠慮して発言できない可能性があるため、可能な限り低学年と高学年でテーブルを分ける運用を提案。低学年のテーブルには大学生が積極的に入り、子どもたちの意見を引き出す役割を担う。子どもにとって紙のアンケートは負担であるため、ボイスメモで感想を録音し、AIで分析する方法へと切り替えた。</p>
子どもたちからのフィードバック	<p>◆ディザスターガーディアンへの提案： ルールの高度化…全部のカードを裏返し、サイコロの出目と同じカードを当てる「本格的な神経衰弱形式」の方が「難しい方が面白い」という意見 クイズ要素の追加…カードに書いてある行動内容（文字）を隠し、数字を見て「地震が起きた時にまず何をするか」を当てるゲームにするというアイデア 難易度の壁…1・2年生からは「覚えるのが難しい」という声、「避難経路確認」「水路の清掃」といった漢字が読めないため「ふりがなを振るべきだ」という極めて実用的な指摘</p> <p>◆防災人狼への提案： 難易度の調整…1年生は「めっちゃむずい」と感じる一方で、4年生や中学1年生は「めっちゃくちゃ簡単」という差があった。「簡単な問題・普通の問題・難しい問題」を混ぜてほしいという要望 内容のバリエーション…子どもが親しみやすい「キャラクターの名前」を当てるクイズや、「地震の時に1人だったらどうするか」という具体的なシチュエーションの質問を増やす提案</p>
学生の振り返り	<p>◆学年によるルールの使い分け： 1年生は「役職」や「ボーナス得点」などの複雑な概念を理解するのが難しいため、単なるクイズやカード集めに特化した「最小限の説明」で遊ばせる必要があると確認した。内容を深く理解して遊べるのは、宿泊訓練などが始まる「小学校4年生くらい」が適正ではないか。</p> <p>◆運営ルールの導入： 特定の子どもが席を占有し続けるのを防ぎ、多くの子どもが体験できるよう「20分程度のアラーム制」を導入し、強制的に入れ替えを行う仕組みの提案。低学年と高学年が混ざると、発言しにくかったり難易度が合わなかったりするため、「低学年向け（簡易ルール）」と「高学年向け（ガチルール）」でテーブルを分ける運用案が出された。</p>



防災人狼



ディザスターガーディアン

●文京区都市交流フェスタ 2026 企画出展

文京区主催「都市交流フェスタ」において、企画・運営プログラムを実施しました。都市交流フェスタの開催目的である「文京区や国内外姉妹都市の魅力の再発見」「子どもへの国際的感覚の醸成」「外国にルーツを持つ方々のコミュニティ参加の促進」を踏まえ、来場者が楽しみながら参加できる企画を立案、準備し、当日運営を行いました。

活動期間	2025/10/22(水)～2026/3/11(水)			
場 所	企画：茗荷谷ボランティアセンター 茗荷谷キャンパス教室 オンライン Google チャット、LINE 会議 31 運営：文京シビックセンター、礪川公園、ラクーアガーデン			
活動内容	<p>「遊んで学ぶ！ 条例クイズ&防災ゲーム Play and Learn! Local Rules Trivia and Emergency Do's and Don'ts Games」と題し「防災アナログゲーム」と「条例クイズ」の2本柱でブース出展を行った。</p> <p>◆防災アナログゲーム（文化体験ブース） 学生考案の2種類の防災アナログゲームを来場者に楽しんでいただく。学生がゲームマスターを務める。 反響：ファミリー層を中心に常に来場者がいる大盛況となり、70枚以上のアンケートを回収、子どもたちが「そうなんだ」と知識を吸収したり、何度も遊びたいと答えたりするなど、高い学習効果と満足度が見られた。</p> <p>◆条例クイズ（自治体ブース連携企画） 文京区友好都市などの条例を題材にしたクイズを作成し、クイズパンフレットを来場者に配付した。参加者は各自治体の物産展ブースを訪れ、そこにいる学生に回答を伝えると、各自治体をイメージした学生考案のシールが受け取れる仕組み。英語版も製作し Web サイトに公開した。 反響：高齢者がその場で熱心に解いたり、特定の自治体のファンがシールを非常に喜んだり、世代を超えた交流が生まれた。</p>			<p>条例クイズ</p> <p>シール</p>
参 加	学生 100(延べ) 投稿 375	文京区都市交流 フェスタ2026	◎開催日：2026/3/7(土) 10:00-16:00 ◎会場：文京シビックセンター ◎来場：約1万人 ◎主催：文京区 ◎事業総受託者：株式会社東京ドーム	

学生の振り返り	<p>◆直面した課題と難しさ 企画のミスマッチ…クイズが難解で大人向けだった一方で、景品はシールで子ども向けだったため、内容とターゲット層が噛み合わないという課題が残った。 自治体連携の難しさ…事前打ち合わせと当日担当が異なり協働体制の構築に苦労した。 身分提示の重要性…当初は物産展ブースの自治体名との混同を避けるため大学名を名乗らずに活動していたが、その結果、来場者に不審に思われる要因となった。後に「中央大学の学生」であることを明示すると、大学のネームバリューによって信頼が得られ、活動が円滑になることを学んだ。</p> <p>◆今後に向けた改善点 自治体との事前交流…今後は事前に当日担当と深く交流し、具体的なお手伝い（物産販売への協力など）を申し出ることで、より良好な関係を築くべきであると振り返った。 視認性と周知の強化…他ブースに比べて装飾が地味だったため、大きなポスターや掲示物を事前に準備し、遠目からでも活動内容が分かるようにする工夫が必要。 当日の運営者への裁量移譲…どんなに計画しても当日は予期せぬ事態が起こるもの、当日運営は各担当の判断に任せる旨、裁量について事前によく打ち合わせておく。 人員不足…長期間のプロジェクトであったが、常に人員不足があり、今後はより慎重な検討が必要。 多くの計画と準備を行って臨んでも実践することの難しさや厳しさを痛感すると同時に、ダイレクトな評価を得られたことで大きな学びを得られた貴重な場となった。</p>	
---------	--	--

4 講座・説明会・ワークショップ・交流会

●連続ボランティア講座

社会課題に取り組むボランティア活動への理解を深め、将来のキャリア形成につなげることを目的として、全2回にわたる講座をオンラインで実施しました。

第1回 「『社会で必要とされるスキル』とボランティア活動 就活や公務員試験を勝ち抜くために」

実施日	2025/6/12(木)17:00-18:30	参加人数	学生 15・職員 1
講師	滝井元視氏 (キャリアコンサルタント)		
学生の声	<ul style="list-style-type: none"> これまで就職活動については概要しか知ることができませんでしたが、今回のような少人数の環境で、より具体的なアドバイスを聞くことができました。不安だらけだった私にとって、本当に参加して良かったと思いました。 大学生活の中で主体性をもって何かの活動に取り組んだ経験は、自分の良さをアピールするために必要なことなのだ改めて実感しました。これまで自ら働きかけて何かをしてきたと胸を張って言える経験があまりなかったので、時間に余裕のある今だからこそ、主体的に行動できる経験を積みたいと思いました。 		



第2回 「ボランティア経験をキャリアに変える！卒業生の実践からのヒント」

実施日	2025/6/18(水)17:00-18:20	参加人数	学生 21・職員 1
講師	橋本樹氏 (2014年度卒)、千葉麻由氏 (2020年度卒)		
学生の声	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアに興味が高まりました。自分の所属する学科は福祉がメインではないですが、そこにとらわれず自分を見つけるために行動するのも大切だと感じました。 やりたいことが見つからない中で、ボランティアというものを就職につなげていく方法について学べたことは貴重な経験となりました。 		

●傾聴&コミュニケーション講座 「あるある」から学ぶ、対話力アップ講座

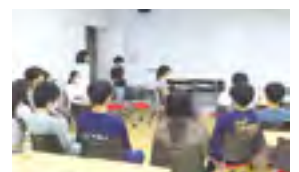
学生相談室カウンセラーの竹部先生に講師としてご協力を賜り、「傾聴&コミュニケーション講座」を多摩キャンパスのボランティアセンターで実施しました。本講座では、気持ちの良い聴き方・話し方について、「傾聴」の基本姿勢やコミュニケーションのポイントを、グループワークを交えて学びました。

実施日	2025/6/21(土)14:00-16:40	場所	多摩キャンパス F405 教室
講師	竹部友子氏 (学生相談室カウンセラー・臨床心理士)	参加人数	学生 8・職員 1
学生の声	<ul style="list-style-type: none"> 今回の講義を通して、自分の気持ちに気づいていなかったことに気づきました。また、自己表現について考え、コミュニケーションに向き合うことの大切さを学びました。DESC法でのグループワークでは、個人的には「頼む側」のお題が難しいと感じました。他の方の意見で印象に残ったのは、「日程を二択で聞くこと」や「『ぜひAさんにも参加してほしいので』といった文言を添えること」です。相手に回答してもらうには、相手を慮るだけでなく、快く応じてもらえるような言い回しが重要なのだと感じました。本講義を通して学んだことを、今後の自己表現の成長につなげていきたいと思いました。 		



●円滑なグループ運営のためのファシリテーション講座

ミーティングやグループワークなどにおけるファシリテーターとしてのコツを学ぶ講座を多摩キャンパスで実施しました。本講座では、グループに分かれてのテーマトーク、ファシリテーション体験を織り交ぜながら、ミーティングやグループワークを円滑に進め、参加者の協力を得て成果を出すための進行スキルを学びました。



実施日	2025/ 6/ 7(土)15:30-17:00	場所	多摩キャンパス GG504 号室	参加人数	学生 13・職員 1
学生の声	<ul style="list-style-type: none"> グループワークのテーマを新しいものに変えてみればどうかと思いました。 様々な人と交流ができて有意義な時間でした。 				
実施日	2025/10/11(土)15:30-17:00	場所	多摩キャンパス F603 教室	参加人数	学生 10・職員 1
学生の声	<ul style="list-style-type: none"> 楽しみながらファシリテーションについて学ぶことができたので有意義な時間を体験できました。今後の就活やボランティア活動に活かしていきたいです。 				

●コーディネーターによる相談・説明会

ボラカフェ			
ボランティアに関する様々なトピックを学生に紹介・説明する説明会を、昼休み(12:40-13:10)に実施しました。			
テーマ	実施日	場所	参加人数
国内宿泊編	2025/4/23(水)	オンライン	学生 9・職員 1
国際宿泊編	2025/4/25(金)	オンライン	学生 5・職員 1
多摩キャンパス周辺での活動編	2025/5/12(月)	多摩ボランティアセンター	学生 3・職員 1
都心キャンパス周辺での活動編	2025/5/15(木)	茗荷谷ボランティアセンター	学生 5・職員 1



●交流会

昼休み中大学生トーク			
学生発信により、ボランティアや社会課題に関心のある学生を対象に体験談を共有する交流会を、昼休み（12:40-13:10）に実施しました。			
場 所	茗荷谷キャンパス ・ 5/30 市ヶ谷田町キャンパス ・ 6/6 後樂園キャンパス	参加人数	学生 66(延べ)・職員 1
テーマ	やりたい×できることから -- 宮城県の子ども学習支援 --		2025/5/21(水)
	地域とつながるボランティア		2025/5/22(木)
	まだまだ間に合うボランティア新歓説明会		2025/5/26(月)～28(水)
	地域とつながるボランティア -- 子ども食堂・学習支援・小学校特別授業サポート・小学校読み聞かせ・中学生文化祭 --		2025/5/30(金)
	社会とつながるボランティア - 気仙沼と新宿での経験 -		2025/6/ 4(水)
	若者視点で若者と政治を結びつける！		2025/6/ 5(木)
	地域とつながるボランティア		2025/6/ 6(金)
	俺たち何？ え？ チーム防災		2025/6/ 9(月)
	非行少年と関わるボランティア		2025/6/10(火)
	宮城県での地域交流 -- 大学生として子どもたちと関わる --		2025/6/11(水)
自分たちが暮らす 社会は自分たちで作る！ -- 社会課題へのアプローチを通じて --		2025/6/12(木) 中止	

夏休み前のボランティア説明会			
内 容	夏季休暇中に参加可能な宿泊型の学外団体主催活動を中心に、昼休み（12:40-13:10）にボランティア活動の紹介を実施しました。		
実施日	2025/6/24(火)	場 所	オンライン
		参加人数	学生 20・職員 1
春休み前のボラカフェ			
内 容	学生による体験談の共有およびコーディネーターによるボランティア活動の紹介を、10:30-12:00 に実施しました。		
実施日	2026/1/15(木)	場 所	多摩ボランティアセンター・オンライン
		参加人数	学生 10・職員 1

哲学対話 de ボランティア交流会			
内 容	新年度が始まる時期に、学生一人ひとりが自身の「ボランティア」に対する思いを巡らせ、活動において重要となるコミュニケーションを意識しながら、自分や他者との対話を通して、今後の活動について考える機会を設けました。		
実施日	2025/6/1(日) 11:00-15:00 2025/6/7(土) 11:00-15:00	場 所	6/1(日)茗荷谷キャンパス 2E08教室 6/7(土)多摩キャンパス F405教室
		参加人数	6/1(日)学生 3・職員2 6/7(土)学生15・職員2
学生の声	<ul style="list-style-type: none"> ・画期的な対話スタイルに経験がなく、最初は戸惑いましたが、いざやってみると発言しやすい環境でとても学ぶことが多かったです。 ・また参加したいです。チームを作っていく過程でとても役に立つものだなと思いました。各メンバーが考える問いがどれも興味深かったですし、どのような問いでも今までの経験を話したり、問いに対するアイデアが思いついたり、その参加者の姿勢がとても感動しましたし、助けられました。 		

振り返り交流会			
内 容	前期の自身の活動を振り返り、後期の活動につなげる機会を設けると共に、学生同士の横のつながりを促進する場を設けました。		
実施日	2025/12/6(土) 13:30-17:00	場 所	多摩キャンパス F405 教室
		参加人数	学生 5・職員 2
学生の声	<ul style="list-style-type: none"> ・とても深い話ができてうれしかったです。もう少し自分もボランティアに関する話ができたら良いなと思いました。 ・自分が触れることのない価値観に触れたことは本当に良かったと思いました。 ・普段は考えないようなことを考えられる良い機会となりました。自分の中でモヤモヤしていることは言語化して誰かに伝えることが一番だと、改めて感じました。 ・自分の表面的な性格だけでなく、より深い考えについても見つめ直すことができました。 ・対話を通して思っていたことを共有し、自分の考え方との相違点に直面することで、意義のある交流会になりました。 		

防災カードゲーム・クロスロード体験会			
内 容	災害時に迫られる様々な決断について考え学ぶ防災カードゲーム「クロスロード」を用い、災害対応を自らの問題として捉え、参加者同士で多様な意見や価値観を共有する機会を設けました。		
実施日	2026/1/22(木) 13:30-15:00	場 所	多摩ボランティアセンター
		参加人数	学生 4・職員 1
学生の声	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見と多数派の考えが異なる場面では判断に迷うこともありましたが、防災について多角的に考えることができる良い機会となりました。 ・自分の考えだけでなく、少数派の意見にも目を向けて考えることができ、とても良い学びの機会となりました。 		

フードバンクで見える社会課題と、大学生の一步 ～食を通して社会とつながる～			
内 容	実際にフードバンク活動に取り組んだ本学学生が体験を通して得た学びや思いを発表すると共に、ボランティアコーディネーターによる身近なボランティアの紹介や、参加者同士で考えを共有するワークショップも実施しました。		
実施日	2026/2/24(火) 14:00-15:00	場 所	オンライン
		参加人数	学生 10・職員 1
学生の声	<ul style="list-style-type: none"> ・お二人のご経験や、そこから感じられたことを詳しく伺うことができ、非常に有意義な時間となりました。また、私の住む自治体や以前お世話になった場所でもフードバンク活動が行われているようなので、ぜひ参加してみたいと思いました。 ・私は飲食店でアルバイトをしており、これまで食品ロスは良くないものだと思い込んでいました。しかし、今日のお話を伺い、食品ロスがあるからこそ提供できる食品があるということを知ることができました。 		

5 報告・発表等

●写真展 VOLUNTEER MOMENTS ～レンズがとらえたボランティアの現場～

ボランティアセンター主催プログラムや公認学生団体の活動に取り組んできた学生に対し、より深い学びの機会を提供すると共に、学生・教職員・近隣住民などに本学生による社会貢献活動の様子を周知・広報しました。

2025/10/20(月)～24(金)	多摩キャンパス 図書館 1階展示ホール
2025/11/12(水)～13(木)	市ヶ谷田町キャンパス 1階エントランスホール
2025/11/17(月)～20(木)	茗荷谷キャンパス 1階企画展示コーナー
2025/11/26(水)～27(木)	後楽園キャンパス 3号館 1階会議室 D・E

共催：日本財団ボランティアセンター

<活動報告会>多摩キャンパスでは活動実践者と鑑賞者間で意見や感想などを共有する報告会も行いました。

実施日・場所			参加人数
2025/10/21(火)	12:40-13:10	多摩ボランティアセンター	学生 11 (うち 2 名スピーカー)
2025/10/23(木)	12:40-13:10	11号館 11220号室	学生 8 (うち 2 名スピーカー)
2025/10/24(金)	12:40-13:10	フォレストゲートウェイ FG310	学生 7 (うち 2 名スピーカー)



多摩キャンパス写真展



市ヶ谷田町キャンパス写真展



茗荷谷キャンパス写真展



後楽園キャンパス写真展



活動報告会

●学生ボランティア団体助成事業「学生ボランティア団体活動レポート募集事業」授賞式

実施日	2026/2/9(月)	場所	東京会場	参加人数	ボランティアセンター公認学生団体「チーム防災」学生 2、職員 1
活動内容	学生ボランティア団体助成事業「学生ボランティア団体活動レポート募集事業」にレポートを応募し、優れた作品として選出されました。これにより助成金の交付を受け、授賞式では団体代表が登壇し、これまでの活動内容について紹介しました。				
学生の声	<ul style="list-style-type: none"> ・チーム防災の活動を紹介する機会をいただき、様々な団体の方々と交流する貴重な機会となりました。 ・同世代の大学生による多様なボランティア活動やビジネスプランに触れ、大きな刺激を受けました。 				

●文京区の学生による地域活動報告会 2026

実施日	2026/3/10(月)	場所	拓殖大学	参加人数	学生 3、職員 1
活動内容	10 大学 17 グループが、地域と連携または地域に根付いて行った貢献活動について報告を行いました。				

2 連携事業

●永山高等学校学習支援 (主催：東京都立永山高等学校)

活動期間	2025/5/18(日)～2026/3/31(火)	申込者数	学生 12
活動内容	学習計画や勉強法の確認および助言、大学進学に関する進路相談、大学入試に向けた高校時代の取り組みや大学入学後の生活の紹介、ならびにテスト勉強に関する生徒からの質問対応を実施。		

●由木東小学校学習支援 (主催：八王子市立由木東小学校)

活動期間	2025/5/1(木)～2026/3/31(火)	申込者数	学生 20
活動内容	主に 1～4 年生の児童を対象に、授業および学校生活のサポート、学習支援、不登校児や個別支援を要する児童へのサポートを実施。		

●多摩市豊ヶ丘プロジェクト (主催：多摩市協創推進室)

活動期間	2025/5/20(火)～2026/3/31(火)	申込者数	学生 16
活動内容	定期的に多摩市豊ヶ丘の現地に集い、関係者との対話を重ねながら、今後の地域づくりに必要なアイデアを年間数回実践し、市の施設整備に関する基本計画策定に向けた住民ワークショップ(年 2～3 回)に参加。		

●排架ボランティア (主催：文京区立小石川図書館)

活動期間	2025/5/15(木)～2026/3/31(火) 研修：4 回 排架：61 回	参加人数	学生 91(延べ)
活動内容	事前研修を受けた上で、学生が文京区立小石川図書館にて排架ボランティアとして図書館運営のサポート(排架)に参加(火曜～金曜、15:30-16:30)。		

●文京区立小中学校学習支援 (主催：文京区)

文京区立大塚小学校(正課授業・放課後)	活動期間	2025/6/3(火)～2026/3/31(火)	登録者数	学生 20
活動内容	担任の先生と共に小学校の授業に入り、教室内で机間指導を行いながら児童の学習をサポート。放課後においても児童の学習をサポート。			
文京区立大塚小学校(特別授業)	活動期間	①2025/12/2(火) ②2026/1/21(水)	登録者数	①学生 1、②学生 1
活動内容	小学校地域学校協働本部地域コーディネーター数名と一緒に授業サポート。児童の誘導およびサポート。 (①パラリンピアン(パラ卓球選手) ②オリンピック(バレーボール選手))			
文京区立第一中学校	活動期間	2025/5/20(火)～2026/3/31(火)	登録者数	学生 34
活動内容	中学校の授業に参加し、教員の学習指導の補助を行うと共に、生徒の学習支援を実施。担当科目は、英語・数学・理科のうち希望制。			

●文京区立大塚小学校よみきかせボランティア (主催：文京区立大塚小学校地域学校協働本部)

活動期間	2025/6/10(火)～2026/3/31(火)	登録者数	学生 11
活動内容	教室にて小学生を対象に読み聞かせを実施 (5月・6月・7月・9月・10月・11月・12月の第2火曜 8:20-8:40)		

●平和を語り継ぐ体験プロジェクト (主催：東京都福祉局)

夏	活動期間	①事前研修 2025/7/1(火), 8/4(月) ②中高生対象「戦後 80 年平和の尊さを語り継ぐための体験会」8/15(金) ③一般対象「東京都戦没者霊苑 遺品展示室見学ツアー」8/6(水)、20(水)
	活動内容	「朗読劇」「語り部との座談会」「平和記念展示資料館の鑑賞」ファシリテーター
	場所	①東京都戦没者霊苑、オンライン ②文京シビックセンター、東京都戦没者霊苑 ③東京都戦没者霊苑
参加人数		申込数：学生 9、事前研修：学生 9(延べ)、ファシリテーター：学生 9(延べ)
冬	活動期間	①事前研修 2026/1/6(火)～9(金) ②中高生対象「東京都戦没者霊苑 遺品展示室見学ツアー」1/12(月・祝)
	活動内容	「語り部さんとの座談会」「平和祈念展示資料館の資料解説」ファシリテーター
	場所	①オンライン ②東京都戦没者霊苑 (文京区礪川公園内)
参加人数		申込数：学生 3、事前研修：学生 3(延べ)、ファシリテーター：学生 3

●スポ GOMI ワールドカップ 2025 (主催：日本財団スポ GOMI 連盟/共催：日本財団/広告協力：日本財団ボランティアセンター)

実施日	東京大会：2025/7/26(土)	場所	東京国際交流館プラザ平成周辺	参加人数	学生 2
活動内容	チームに同行して安全管理や競技違反の有無を確認する審判業務、ごみ拾い終了後の計量、その他の運営サポート				
実施日	全国大会：2025/9/21(日)	場所	新宿駅周辺	参加人数	学生 3
活動内容	ごみ拾い終了後の計量およびポイント集計、会場誘導やイベント準備・片付けなど、運営全般のサポート				

●みんなといっしょの運動会 (主催：日野市社会福祉協議会、日野市・ボランティアセンター)

実施日	2025/10/ 5(日) 13:30-16:30	場所	日野市市民の森ふれあいホール	参加人数	学生 5
活動内容	障がいのある方のサポート、ポッチャ競技や団体競技への参加、応援				

●大塚町町会行事ボランティア (主催：大塚町町会)

秋祭り	実施日	2025/ 9/21(日) 10:30-13:30	場所	中央大学茗荷谷キャンパス東南側	参加人数	学生 6
	活動内容	大塚町町会主催 秋祭り「子どもゲーム広場」の会場運営、子どもたちへの対応、片付け				
餅つき	実施日	2026/ 2/ 7(土) 11:30-13:30	場所	貞静幼稚園 (文京区)	参加人数	学生 10
	活動内容	餅つき大会で 餅つきの「搗き手」「会場全般のお手伝い」				

●茗荷谷町会ハロウィン祭り (主催：茗荷谷町会)

実施日	2025/11/1(土) ①14:00-20:30 ②17:00-19:30	場所	①文京区立小日向台町小学校を拠点に茗荷谷エリア ②中央大学茗荷谷キャンパス 1 階	参加人数	①学生 7 ②白門祭実行委員 7
活動内容	①子どもたちの引率・運営サポートボランティア ②チェックポイント協力				

●法遵守の文化のためのグローバルユースフォーラム運営 (主催：法務省) (※投稿=チャット投稿数の合算)

国際連合薬物・犯罪事務所および法務省主催「第 4 回 法遵守の文化のためのグローバルユースフォーラム」が茗荷谷キャンパスにて開催され、世界 43 国・地域から集結した 84 名のユースたちを学生・教職員が一体となって温かく迎え入れ、国際会議の円滑な進行を力強く支えました。本フォーラムが大学キャンパスを会場とするのは初めての試みで、学生ボランティアは運営を支え、随所で存在感を発揮しました。

ボランティア活動期間	2026/2/2(月)～3/11(水) ①キックオフ 2/2(月) ②企画準備 2/3(火)～3/4(水) ③フォーラム 3/5(木)～ 7(土) ④広報、振り返り 3/8(日)～11(水)	場所	①茗荷谷ボランティアセンター ②茗荷谷キャンパス (2/28, 3/4)、LINE、Google チャット ③茗荷谷キャンパス、LINE ④LINE、Google チャット	参加	①13 ②15(延べ)、投稿 70 ③38(延べ)、投稿125 ④投稿 26
------------	---	----	---	----	---

キックオフ会議にて業務の洗い出しを行い、コミュニケーション、広報、受付、のせこみ、来賓対応、ウェルカムイベント企画、周辺 Map 制作の 7 グループに分かれ、それぞれ準備を進めた。コミュニケーション…ディスカッション中、ユースグループに付き添いサポートを行う/広報…フォーラム中の写真撮影、広報用写真の選定および法務省への提出、各セッションの SNS 日英での発信/受付…受付業務および ID カードの発行/のせこみ…朝、宿泊ホテルへ迎えに行き、ユースのバス案内を実施/来賓対応…皇族および講演者等への対応/ウェルカムイベント企画…和楽器鑑賞、折り紙・日本舞踊体験イベントの企画および実施の先導/周辺 Map 制作…キャンパスおよびホテル周辺の買い物情報や、外国人向けの夕食場所を紹介する Web パンフレットの制作。

学生の声

- 一緒になかを成し遂げるという経験ができ大学生活の中で記憶に残るボランティアだったなと思う。英語を使う場面や海外の人と関わることができたということも良い経験になった。
- 世界各国から集まるフォーラムのボランティア活動をしたのは初めての経験であり、異なるバックグラウンドを持つ方々と交流する中で、多くの学びを得ることができた。ゼロから作り上げるプロジェクトだったこともあり、運営の難しさを実感するとともに、大きなやりがいを感じた。
- 法務省という機関と共に仕事をできたことはとても有意義だった。法務省の方がバックアップしてくださりお忙しい中で我々学生に様々なことを経験させてくれた。我々に本当に期待しているんだというのが伝わってきてうれしかった。その期待に応えられたかどうかはわからないが私としては参加できたことはよかったし、やりがいのある仕事ができ本当に良かった。



3 ボランティアセンター-学生スタッフ・公認学生団体 活動報告

① 学生スタッフ

学生スタッフは2021年度に発足し、本年度で第5期生を迎えました。多摩キャンパスを拠点に、ボランティアセンターの教職員と協働しながら、センター主催のボランティア活動の企画・運営に携わっています。また、本学学生に向けてボランティアの魅力を発信する役割を担っています。

◆学生スタッフ（多摩キャンパス） ～多様な個性とつながり、新たな世界に挑戦する～

団体理念

学生スタッフは、学生目線で主体的に企画・運営に携わり、ボランティアセンターの教職員とともにボランティア活動を推進しています。Challenge→Volunteer→Create「多様な個性とつながり、新たな世界に挑戦する。」をビジョンとして制定し、学スタ五か条をもとに様々な活動に取り組んでいます。



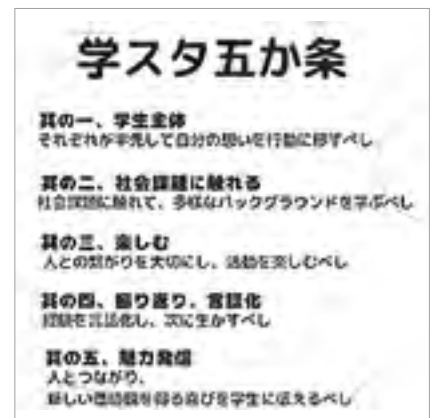
団体構成

22名（4年生5名 3年生9名 2年生6名 1年生2名）

活動

（活動場所：多摩キャンパス周辺）

- ① ボランティアプログラムの企画・運営
連続ボランティア講座の司会や「夏ボラ」「春ボラ」「空きコマボランティア」の企画など、学生主体でボランティアプログラムの企画・広報、イベントの調整を行っています。
- ② 地域ボランティア活動の推進
キャンパス周辺において、地域の方々と連携しながら、企画から当日の準備・運営までを行っています。
- ③ ボランティア活動推進に関わる取り組み
①・②の活動をさらに充実させるための取り組みです。具体的には、SNSでの広報や白門祭への出展などがあります。今後は、新たな分野別プロジェクトチームを通じて、中大生との架け橋となることを目指し、活動を展開していきます。

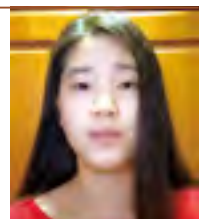


村山 美彩貴（学生スタッフ 経済学部3年生より）

2021年度に結成した学生スタッフは、2025年度をもって5年目を迎えました。今年度は変革期と位置づけ、運営面では代表交代制の導入、班活動では合宿場所の変更、白門祭への室内企画での参加、さらに学スタ公式インスタグラムの開設など、これまでにない多くの挑戦を行った1年となりました。夏ボランティア・春ボランティアでは新たな分野の企画にも取り組み、学生スタッフ自身の「やりたいこと」を形にすることができました。前年度までの反省を踏まえながら変化を重ね、活動の幅を広げることができたと感じています。これまでのつながりに感謝すると共に、今後もボランティアの輪をさらに広げてまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

A.M.（学生スタッフ 総合政策学部3年生より）

学生スタッフ発足から5年目となる今年度も、新たな仲間を迎え、これまでにない斬新なアイデアと共にステップアップした1年となりました。今年度の白門祭では、被災地で汚れてしまった写真を手作業で洗浄し返却する「写真洗浄ボランティア」のワークショップを実施し、「被災地に行かなくてもできる被災地支援」という新たな支援の形を提案することができたと考えています。そのほかにも、様々な企画を通して、ボランティアを身近に感じてもらえるきっかけをつくることができました。今後も、ボランティアに関心をもつ一人でも多くの人に活動が届くよう、企画づくりに取り組んでいきます。



夏合宿



白門祭
(写真洗浄)



春合宿

② 公認学生団体

学生部では、2011年3月11日に発生した東日本大震災以降、被災地支援を中心としたボランティア活動に取り組む学生を継続的に支援してきました。2012年4月には「被災地支援学生団体ネットワーク」を設立し、特定の地域と継続的な関係を築きながら活動する学生団体を支援する体制へと移行しました。さらに2017年4月からは、名称を「ボランティアセンター公認学生団体」と改め、被災地に限らず、多摩地域や都内などキャンパス周辺で継続的に活動する団体についても公認・支援を行っています。

◆【地域活動】面瀬学習支援 ～共に学び、共に描く、ふるさとの未来図～

団体理念

「学校や家庭とも異なる、子どもたちの『第三の居場所』を創る」ことを理念に、面瀬学習支援は、震災後、多忙な大人たちに囲まれる中で「子どもが子どもらしくなくなっている」という地域の声をきっかけに発足しました。

先生や親とは異なる、お兄さん・お姉さんのような「ナナメの関係」を築くことで、子どもたちが本音を安心して打ち明けられる場を目指しています。

活動開始から10年を機に実施した調査では、地域課題の深刻化と支援の重要性を改めて確認しました。今後は「子ども」を活動の主軸に据え、理念の根幹である居場所づくりをさらに深化させていきます。地域と共に、子どもたちの「今」と「未来」に寄り添う活動を続けてまいります。

団体構成

28名（4年生4名 3年生4名 2年生12名 1年生8名） 顧問：西 亮太（法学部）

活動

（活動場所：宮城県気仙沼市）

私たちは、気仙沼市面瀬地区において、子どもたちの「第三の居場所」となる学習・交流支援を行っています。

2025年度は、多摩・茗荷谷・市ヶ谷田町の3拠点をオンラインで結ぶ運営体制を確立し、拠点間および組織内の連携を強化しました。夏季活動では、中断していた「ウォーターフェス」を再開し、地域に活気をもたらしました。また、同世代の語り部から震災の「過去」を学ぶと共に、まちづくりに携わる方々から地域の「未来」について話を伺い、今後の支援の在り方を議論する機会も設けました。こうした継続的な取り組みはコンペティションにおいても評価され、活動資金の獲得につながりました。今後も「ナナメの関係」を軸に、地域と学生の双方が成長できる場を創出してまいります。

活動	実施日	内容	参加人数
夏活動・スタディーツアー	2025/ 8/ 2(土)～ 8/ 7(木)	気仙沼スタディーツアー、面瀬小学校の児童を対象とした学習支援・レクリエーション（ウォーターフェス企画・フルーツポンチ企画）、地域の夏祭りの手伝い	学生 16
冬活動	2025/12/26(金)～12/29(月)	面瀬小学校の児童を対象とした学習支援・レクリエーション（冬らしい焼き芋企画・気仙沼に関するテーマやミニゲームを用いたビンゴ企画）	学生 7
春活動	2026/ 3/25(水)～ 3/27(金)	面瀬小・中学生を対象とした学習支援・レクリエーション（押し花でしおり作り）・自由遊び	学生 6

岡村 咲良（面瀬学習支援 代表・国際情報学部2年生より）

2025年度は、組織にとって大きな変革期となりました。多摩と都心の学生数が均衡したことで、拠点間の連携強化や属人化の解消、ナレッジの共有が喫緊の課題となりました。OBOGの知見を仰ぎながら組織基盤の再構築に努める一方で、長年積み上げてきた活動の継続性がコンペティションにおいて高く評価され、活動資金の獲得と登壇の機会を得ることができました。現地・気仙沼市の皆様からは、活動規模の拡大を期待する声も寄せられており、今回の評価は大きな原動力となっています。今後も学生間の綿密な連携を図り、地域と学生の双方が価値を享受できる有意義な時間を提供できるよう、一丸となって活動に邁進してまいります。



辻本 智佳（面瀬学習支援 副代表・文学部2年生より）

2025年度の活動を振り返ると、地域の皆様との関わりの中で、活動の意義を改めて実感した一年でした。団体として久しぶりに参加した「気仙沼みなとまつり」では、現メンバーにとって初めての参加となり、地域の様子を学ぶと共に、現地の高校生が主催した企画の運営をサポートするなど、新たな形で地域と関わる経験ができました。また、子どもたちとの活動も印象深く、夏の活動で初めて参加した子どもが、その楽しさから翌日や冬の活動にも足を運んでくれたことは大きな喜びでした。保護者の方々や現地の小学校の先生から感謝のお言葉や活動の継続を望む声をいただく中で、子どもたちにとっての居場所としての役割を実感しています。今後も、子どもたちにより良い居場所を届けられる団体を目指してまいります。



夏活動



冬活動



春活動



東京キワニスクラブ
「ボランティア活動賞」

◆【地域活動】 チーム防災 ～「学生×地域×防災」で自助・共助の力を高める～

団体理念

「災害時に生き延び、そして災害後に安心して暮らす」という最終目標に向かい、チーム防災は「防災活動を通じて学び合い、活かし合い、自助・共助の力を高め合う」ことを理念として活動しています。

東日本大震災の被災地でボランティア活動に参加していた先輩方が、東京における防災活動の必要性を感じたことをきっかけに、チーム防災は発足しました。その想いと理念は、現在も団体内で大切に受け継がれています。

今後も地域の皆さまとの交流を通して、防災に関する学びを深め、実践につなげていきます。

団体構成

23名（4年生4名 3年生5名 2年生8名 1年生6名） 顧問：中村 亨（商学部）

活 動

（活動場所：多摩・茗荷谷）

主に日野市および文京区で開催されるイベントに参加し、災害に関する授業やオリジナルゲームを通じた防災啓発活動を行っています。法学部の移転に伴い二拠点での活動体制となりましたが、今後も地域の方々を楽しみながら防災について学んでもらい、自助・共助の力を高めることを目指して、チーム一丸となって活動に取り組んでいきます。

活 動	実施日	内 容	参加人数
防災宿泊訓練 @文京区立第一中学校	2025/ 5/ 9(金)	避難所運営ゲームを通じて、地域の中学生に防災の意義を伝え、防災意識の向上を図った。	学生 7
防災宿泊訓練 @文京区立第八中学校	2025/ 5/23(金)	避難所運営ゲームを通じて、地域の中学生に防災の意義を伝え、防災意識の向上を図った。	学生 7
夏はイオンで！ 工作ボランティア @イオンモール多摩平の森	2025/ 8/24(日)	防災金魚釣りや紙食器づくりなどの体験を通して、地域の方々の防災意識向上を図った。	学生 3
にこにこフェスティバル @なかおね公園（八王子市）	2025/ 9/13(土)	防災金魚釣りを通じて、地域の方々の防災意識向上を図った。	学生 1
防災宿泊訓練 @文京区立大塚小学校	2025/ 9/19(金)	避難所運営ゲームを通じて、地域の小学生に防災の意義を伝え、防災意識の向上を図った。	学生 7
はちゃめちゃハロウィン大冒険 @中郷子ども・若者育成支援センター長房分館跡地	2025/10/25(土)	防災百人一首や防災金魚釣りを実施し、防災知識を楽しく学べる機会を提供した。	学生 3
すみだボランティアまつり @墨田区立押上小学校	2025/10/26(日)	防災百人一首や防災金魚釣りを通じて、地域の方々との学びを共有し、交流を深めた。	学生 5
秋冬の防災イベント @東豊田公園	2025/12/ 6(土)	防災金魚釣りを通じて、日野市の方々への防災啓発を行った。	学生 2
子どもンティ @小宮公園（八王子市）	2026/ 3/ 1(土)	防災金魚釣りと防災かるたを用い、防災について楽しく学んでもらう企画を実施した。	学生 4
小石川中等教育学校 HUG サポート	2026/ 3/24(火)	高校 1・2 年生の授業内での HUG サポート	学生 4

田中 誠也（チーム防災 多摩支部長・文学部2年生より）

私は、チーム防災での活動を通して、子どもだけでなく保護者の方も巻き込みながら、防災について学ぶ機会をつくることの大切さを学びました。子どもが楽しみながら防災に触れることで、家庭内でも自然と防災について話し合うきっかけが生まれ、備えや意識が広がっていくと感じています。また、活動は誰かに防災を考えるきっかけを提供する場であると同時に、自分自身が防災知識を学び直し、防災を他人事ではなく自分事として捉える機会でもありました。今後は、こうした学びや気づきを一過性のものにせず、より多くの人に防災を身近に感じてもらえるよう、学生の視点を生かした活動を継続し、防災の輪をさらに広げていきたいと考えています。



石川 美藍（チーム防災 茗荷谷支部長・法学部2年生より）

私は、チーム防災において一年間、副代表および茗荷谷支部長を務めました。活動当初は、地域の小・中学校をはじめとする外部の方々との交流に不安を感じていましたが、打ち合わせを重ねて企画を無事に実施する中で、子どもたちや先生方の楽しそうな表情を見ることができ、大きなやりがいを感じました。また、大学に通うだけでは知ることのできない地域の子どもの様子や、文京区全体の教育への取り組みに触れることができた点も、非常に新鮮な経験でした。防災意識の啓発にとどまらず、人との温かい関わりを実感できる活動であり、有意義な一年間となりました。



多摩支部



茗荷谷支部



学生ボランティア
団体活動レポート
優秀賞

◆【地域活動】りこボラ！ ～理系でもボランティアを日常に！～

団体理念

りこボラ！の活動理念は、「理系でもボランティアを日常に！」です。この理念には、りこボラ！が設立された10年前、後樂園キャンパスにボランティア活動を行う組織がなかった当時、理系学生でも日常的にボランティアに参加できる環境をつくりたいという思いが込められています。またその根底には、ボランティアについて話すことが特別なことではなくなり、日常の中で自然と活動の話題が交わされるような、実際の体験に基づく学びや気づきを分かち合える環境を築きたいという願いがあります。私たちはこの理念を掲げ、日々活動に取り組んでいます。

団体構成

99名（3年生26名 2年生30名 1年生43名） 顧問：田口 善弘（理工学部）

活 動

（活動場所：後樂園周辺）

私たちが活動している地域には、地域をより良くしようと取り組む多くの自治体や団体があります。りこボラ！では地域の町会やPTA、各種施設の方々の協力を得ながら、大学生として何ができるかを考え、後樂園キャンパスの所在する文京区を中心に、様々な活動を行っています。

主な活動内容は以下のとおりです。

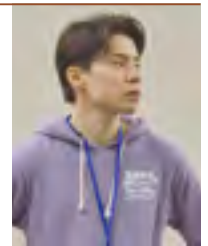
- ・ボランティア活動
ごみ拾い、子ども向け理科実験教室、児童館での活動補助、療育支援、地域自治体主催イベントの運営補助 など
- ・イベント企画
独自のボランティア企画、他大学との合同ボランティア企画、地域のお祭りへの出店、白門祭への出店 など

活 動	実施日	内 容	参加人数
新歓花見ゴミ拾い	2025/ 4/ 8(火)	新入生と共に、後樂園から小石川植物園までの清掃活動を行い、地域への関心を高めた。	学生 21
新歓ゴミ拾い	2025/ 4/10(木)	ゴミ拾いを通して、新入生に環境チームの活動について知ってもらった。	学生 9
新歓ゴミ拾い	2025/ 4/14(月)	ゴミ拾いを通して、新入生に環境チームの活動について知ってもらった。	学生 5
新歓坂道の会	2025/ 4/15(火)	坂道の会(大学周辺の植栽の手入れ)の活動を通して新入生に環境チームの活動について知ってもらった。	学生 18
新歓手話企画	2025/ 4/22(火)	新入生に手話を通じて福祉チームの活動について知ってもらった。	学生 12
新歓ゴミ拾い	2025/ 4/23(水)	ゴミ拾いを通して、新入生に環境チームの活動について知ってもらった。	雨天のため中止
新歓坂道の会	2025/ 4/24(木)	坂道の会(大学周辺の植栽の手入れ)の活動を通して新入生に環境チームの活動について知ってもらった。	学生 7
防災訓練×視覚のバリアフリー	2025/ 5/ 7(水)	視覚障害者の方への誘導方法を学び、体験を通して福祉チームの活動について知ってもらった。	学生 4
新歓ゴミ拾い	2025/ 5/ 8(木)	ゴミ拾いを通して、新入生に環境チームの活動について知ってもらった。	学生 4
みんなDEゴミ拾い	2025/ 5/24(土)	大学から徒歩圏内のエリアで清掃活動を行い、ゴミ拾いを通して新入生との交流を深めた。	学生 12
坂道の会	2025/ 6/28(土)	大学周辺の植栽の手入れを行った。	学生 9
みんなDEゴミ拾い	2025/ 6/28(土)	大学から徒歩圏内のエリアで清掃活動を行った。	学生 14
海さくらゴミ拾い	2025/ 8/16(土)	江ノ島の海の環境保全を目的に清掃活動を行い、ゴミ拾いを通してメンバー間の交流を深めた。	学生 12
久堅町民会花火大会	2025/ 8/17(日)	町民会主催の花火大会で、地域交流と活性化を目的に、開催補助および花火の配布・火付けを行った。	学生 14
目白台第二児童館 縁日	2025/ 8/19(火) ～8/20(水)	小学生向けに縁日のイベントを実施し、小学生と大学生の交流を促すと共に、夏の思い出づくりを提供した。	学生 31 (延べ)
アクティ駕籠町 縁日	2025/ 8/26(火)	子どもたちの記憶に残り、地域とのつながりを感じる機会となるよう、縁日のブースづくりと運営を行った。	学生 16
みんなDEゴミ拾い	2025/ 8/30(土)	大学から徒歩圏内のエリアで清掃活動を行った。	学生 10
千石児童館ご近所公園あそび	2025/ 9/14(日)	イベントを実施し、地域の方に児童館を知ってもらおうと共にスタッフの補助や子どもたちの見守りを行った。	学生 7
異世代交流企画	2025/ 9/16(火)	文京区区民センター活動室にて、人狼や花札などのレクリエーションを通じて、異世代交流を図った。	学生 11
海さくらゴミ拾い	2025/ 9/20(土)	江ノ島の海の環境保全を目的に清掃活動を行い、ゴミ拾いを通してメンバー間の交流を深めた。	学生 3
東青柳町会祭り	2025/10/ 4(土) ～10/ 5(日)	町内を一周する神輿の補助および縁日の片付けを行い、地域の方々と交流した。	学生 19 (延べ)
みんなDEゴミ拾い	2025/10/23(木)	大学から徒歩圏内のエリアで清掃活動を行った。	学生 11

活 動	実施日	内 容	参加人数
坂道の会	2025/10/23(木)	大学周辺の植栽の手入れを行った。	学生 8
みんなDEゴミ拾い	2025/10/28(火)	大学から徒歩圏内のエリアで清掃活動を行った。	学生 10
せんごくまつり	2025/11/ 1(土)	児童館内で季節のイベントを実施し、子どもたちに楽しんでもらうと共に、各種ブースの運営補助を行った。	学生 8
小日向台町マーケット	2025/12/ 6(土)	スノードーム作成の手伝いや受付、風船準備を行い、文京区の子どもたち楽しい思い出を提供した。	学生 8
東青柳町会 餅つき大会	2025/12/ 7(日)	餅つきおよび準備・片付けを行い、地域貢献と交流を図った。	学生 11
みんなDEゴミ拾い	2025/12/11(金)	大学から徒歩圏内のエリアで清掃活動を行った。	学生 12
理科実験@文京区立柳町小学校	2025/12/14(日)	実験室でのバスボム作りやプール広場でのリング飛行機を通し、子どもたちに理科に興味を持ってもらった。	学生 25
坂道の会	2025/12/20(日)	大学周辺の植栽の手入れを行った。	学生 5
東洋大学 学ボラ コラボごみ拾い	2026/ 2/ 2(月)	後楽園キャンパスから東洋大学白山キャンパスまでのゴミ拾い活動を実施した。	学生 17
梅まつり	2026/ 2/11(水) 2/15(日) 2/21(土) 3/ 1(日)	文京区湯島天満宮「梅まつり」の交通整備、ご案内、出展の手伝い	学生 40 (延べ)
ふれあいウォーキング	2026/ 2/22(日)	文京区内を子どもたちと一緒に散歩しつつ、途中公園でレクレーションを行い交流を深めた。	学生 9
坂道の会	2026/ 2/24(火)	大学周辺の植栽の手入れを行った。	学生 17
柳町小学校パラスポーツ&スノードーム	2026/ 3/ 1(日)	体験やスノードーム制作を通し、小学生との交流を図った。	学生 22
海さくらゴミ拾い	2026/ 3/20(金)	江ノ島の海の環境保全を目的に清掃活動を行い、ゴミ拾いを通してメンバー間の交流を深めた。	学生 13
ゴミの重量で勝負するゴミ拾い	2026/ 3/26(木)	ゴミ拾いを通してメンバー間の交流を深めた。	雨天中止

入江 創允 (りこボラ! 第11期代表・理工学部2年生より)

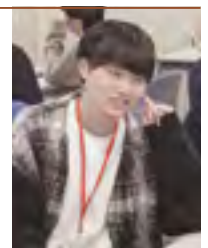
りこボラ! は近年、メンバー数が大幅に増加しました。その一方で、これまでの体制では活動が進めにくくなっていると感じる場面もありました。そこで私は、今年度、りこボラ! の代表として、メンバーがボランティア活動に取り組みやすい組織の在り方を模索しました。具体的には、団体をより良くするための意見を集めることを目的に、有志メンバーを募って「チーム再構築」を立ち上げました。このチームで団体の現状を整理し、今後の改善に向けた方策について話し合いを重ね、組織体制の見直しにも取り組みました。来年度は、チーム再構築での議論を踏まえ、メンバーが「ボランティアを日常に」実践しやすい環境づくりを進めていきたいと考えています。



西川 陽向 (りこボラ! 第11期総務班班長・理工学部2年生より)

私はこの1年間、子どもたちとの理科実験やお祭りでの屋台運営など、幅広い分野のボランティア活動に携わってきました。企画ごとに準備内容や注意点が異なる中で、様々な観点から仲間と話し合い、より良い活動を実施できるよう努めてきました。その結果、当日に子どもたちや地域の方々の笑顔や感謝の言葉に触れるたびに、活動に取り組んで良かったと心から感じています。「ボランティア」と聞くと、誰かに頼まれたことを無償で行うというイメージを持たれがちですが、私自身は、自分のやりたいことをボランティアを通して経験しているという感覚で活動に向かっています。受け身になるのではなく、自ら役に立ちたいことや支援したいことを考え、主体的に行動する姿勢を大切にしてきました。

この文章を読んでいる皆さんにも、それぞれが取り組みやすいボランティアの形を見つけ、気軽に挑戦してもらえたらうれしく思います。



子ども・教育チーム



地域チーム



福祉チーム



環境チーム



白門祭



10周年記念

◆【地域活動】SCHMATZ（シュマッツ） ～今ある資源で、みんなの幸福を～

団体理念

私たちの活動理念は、「今ある資源で最大限の幸福を」です。フードドライブを通じて、困っている人と困っている人を食品でつなぐ架け橋となることを目指しています。また、児童館での出張講義による食育（with Children）、学生同士や他大学との交流（with Students）、地域の方々とのつながり（with Local People）を大切にし、茗荷谷キャンパスを拠点に活動しています。さらに、助け合いの輪を世界へと広げ（with World）、幸せの架け橋となることを目指します。

団体構成

13名（4年生2名 3年生3名 2年生6名 1年生2名） 顧問：工藤 裕子（法学部）

活動

（活動場所：茗荷谷周辺）

① フードドライブ活動（食品回収）

児童館やスターバックス コーヒー 茗荷谷店において、フードドライブ活動として食品回収を行っています。

② フードロスに関する出張講義

文京区内の児童館で、フードロスをテーマとした出張講義を実施しています。講義に加え、ゲームやクイズ、食品回収BOXづくりなどを通して、子どもたちが楽しみながら学べる工夫を行っています。

③ 広報活動

ポスターの作成やBーぐるバス車内広告などを通して、SCHMATZの活動や食品回収の取り組みを広く発信しています。

私たちは、自由な団体である強みを生かし、今後も様々なことに挑戦していきます。

活動	実施日	内容	参加人数
食品回収活動	2026/2/ 6(金) 2026/2/20(金) 2026/3/ 6(金) 2026/3/20(金)	スターバックス コーヒー 茗荷谷店に食品回収箱を設置し、食品回収活動を実施し、回収後、文京区役所へ届けた。	学生 8 (延べ)

坂本 桜子（SCHMATZ 副代表・法学部2年生より）

この1年間、私はSCHMATZの活動の中でも、特に児童館でのフードドライブ活動およびそれに関連する出張講義を中心に担当してきました。活動を重ねる中で、子どもたちの好奇心や関心を引き出すためには、内容や伝え方に工夫が必要であると感じるようになりました。そこで、身近な例を用いたクイズや、子どもたちが考えながら参加できるレクリエーション形式を取り入れることを意識しました。その結果、活動に興味を示す様子や、実際に食品を寄付してくれる姿が見られ、社会的なテーマを子どもたち自身にとっても身近なものとして受け止めていることがうかがえました。今後も、フードドライブ活動を通じて子どもたちと食育の輪を広げ、団体理念の実現を目指していきたいと考えています。

Y.S.（SCHMATZ 広報担当・法学部2年生より）

私はこの1年、広報担当としてBーぐるバスの車内広告制作や、スターバックスコーヒー茗荷谷店での食品回収活動に携わりました。Bーぐるバスでの広報活動では、多くの方の協力を得ながら試行錯誤を重ね、特にコマ撮り撮影では、数分の映像を完成させるために何日も地道な作業に取り組みました。完成した広告には強い愛着が湧き、今では大切な作品の一つとなっています。また、食品回収活動を通じて、普段関わる機会の少ない子どもから大人まで、地域の方々とお会いすることができました。この1年は、人との温かなつながりと新たな挑戦に恵まれた、非常に意義のある時間となりました。



児童館での出張講義の準備



出張講義



スターバックスコーヒー
茗荷谷店での食品回収活動



Bーぐるバスの車内広告制作



フードドライブ活動で集まった食品

協定・助成／表彰／メディア掲載

●協定・助成

敬称略

名 称	公益財団法人 日本財団ボランティアセンター	対象団体／活動	ボランティアセンター
ボランティアセンター主催の宿泊型活動のほか、イベント、講座、スタディーツアーなどに必要な費用を助成していただきました。			
名 称	中央大学学生会	対象団体／活動	ボランティアセンター公認学生団体
公認学生団体の活動における交通費や宿泊費の補助をはじめ、多摩と茗荷谷キャンパス周辺での活動に必要な資金の補助をしていただきました。			
名 称	福島県再生可能エネルギー復興推進協議会	対象団体／活動	ボランティアセンター
福島春ボラ&スタディーツアーの宿泊費、現地での移動のバス借り上げ費用を助成していただきました。			
名 称	社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団	対象団体／活動	ボランティアセンター
ボランティアセンター主催の宿泊活動に必要な宿泊費の一部を助成していただきました。			

●表彰

敬称略

ボランティアセンター公認学生団体 面瀬学習支援：東京キワニスクラブ「子どもの未来を拓くボランティア活動賞」
ボランティアセンター公認学生団体 チーム防災：一般財団法人学生サポートセンター「学生ボランティア団体活動レポート 優秀賞」
ボランティアセンター公認学生団体 チーム防災：中央大学学生会会長奨励賞

●メディア掲載

新聞・テレビなど 掲載

敬称略

メディア名	内 容	掲載／放送日
大栗川かるがも館（多摩市）発行 かるがも君	多世代がつながる！かるがも館&中央大学ボランティアの初コラボ	2025年 6・7月号
三陸新報	「水遊びでも交流」中央大生が学習支援	2025年 8月 6日
北國新聞	壊れた輪島塗漆器 アクセサリーに 中央大生、三井で	2025年 8月29日
大栗川かるがも館（多摩市）発行 かるがも君	8月19日(火)に第2回中大ボランティアセンターとの共催イベント「大学生と夏休みの宿題を終わらせちゃおう！」を開催	2025年10・11月号
愛宕コミュニティセンター愛宕かえで館（多摩市）発行 かえでニュース	大学生と交流しよう 大人の井戸端サロン開催	2025年10月25日発行
福島民友新聞	中大、大熊や富岡で奉仕	2026年 2月17日

●大学広報誌

草のみどり（中央大学の最新情報を伝える父母連絡会機関紙）掲載

敬称略

Vol.	掲載者	内 容	掲載月
349	【学生スタッフ】 須藤綾（文学部）	ボランティアの可能性	2025年 5月
350	鳥生健太（総合政策学部）	“支援活動”の本質に触れて —福島県原発事故地域での活動から—	2025年 7月
351	【りこボラ！】 中村太一（理工学部）	私が思うボランティアに必要なこと	2025年 9月
352	【チーム防災】 森川蓮真（法学部）	防災啓発の在り方を考える	2025年11月
353	【面瀬学習支援】 原田大地（経済学部） 【りこボラ！】 浅沼舞由（理工学部） 【よりみちひろば】 渡辺真琴（法学部）	【座談会】これまでの価値観を変えてくれた “ボランティア”に感謝！	2026年 1月

中央大学学員時報（同窓会組織「学員会」が発行する機関紙）掲載

Vol.	内 容	掲載月
530	学生ボランティア支援 中央大学ボランティアセンターと連携し学生の社会貢献活動をサポート	2025年 4月春号

HAKUMON Chuo（中大生が取材・編集する大学広報誌）掲載

Vol.	内 容	掲載月
288	「フードバンク」から見える社会課題 ボランティアセンターと協力、オンラインイベント開催	2026年 早春

行 動 す る 知 性 。



発行日：2026年5月

発行者：中央大学ボランティアセンター

連絡先：TEL 042-674-3487

E-mail：chuo-volunteer-grp@g.chuo-u.ac.jp